

1. 件名：「玄海原子力発電所 3， 4 号機及び川内原子力発電所 1， 2 号機の地震等に係る新基準適合性審査（標準応答スペクトルの規制への取り入れに係る変更）に関する事業者ヒアリング（6）」

2. 日時：令和 4 年 9 月 2 8 日（水） 1 0 時 1 0 分～ 1 2 時 4 0 分

3. 場所：原子力規制庁 9 階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、西来主任技術研究調査官、馬場係員、松末技術参与

九州電力株式会社：土木建築本部 副本部長 他 9 名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年 9 月 2 1 日に受取済み>>

- ・ 川内原子力発電所 1 号炉及び 2 号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価における地下構造モデルの設定について（コメント回答）
- ・ 玄海原子力発電所 3 号炉及び 4 号炉 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価における地下構造モデルの設定について（コメント回答）
- ・ 川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版）日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価（第二版）の影響について

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	はい。それでは、これから、川内玄海の標準応答スペクトルを考慮した地震動評価こちらのコメント回答、ちょっと時間があれば、ちょっと長期評価でこれ前回 5 月に、
0:00:17	伺いましたけど長期評価の影響についてということで、ヒアリングの方を進めたいと思います。後者の方はちょっとまた始まる前に私の方から一旦区切りますけども、ではまず、
0:00:31	標準応答スペクトルの方ですねこちらのコメント回答今回は、地下構造モデルの設定の考え方こちらについてご説明をいただく形になります。あわせて、
0:00:43	何か今月の頭ですかね面談の方で、少しボーリング孔を掘るような調査、こちらの方にちょっと天候等の関係もあって少し遅れがあるというふうに伺ってますので、
0:00:55	あわせてそのスケジュールの方もこの資料の方には、
0:00:59	書いていただけてます特に変更点があるかないかちょっとそこら辺中心にスケジュールの方はご説明いただければと思います。では九州電力の方から説明をお願いします。
0:01:12	はい。九州電力の本村でございます。本日はよろしくお願いいたします。まず、本日のご説明資料の確認ですけども、特定せず関係の川内の T T S 009、玄海の T P G 009、それと、地震本部関係の資料の三つになります。お手元にございますでしょうか。
0:01:33	先ほどお話がありました通り、まず特定せずの話をさせていただいて次に、地震本部関係の順でご説明させていただきます。特定せず関係につきましては、仙台からご説明させていただいて続けて玄海を、その差分でご説明させていただきます。
0:01:50	よろしくお願いいたします。早速ですけども川内の T T S 09、
0:01:56	の資料を用いてご説明させていただきます。開いていただいて 1 ページ目に、目次を示しております。まず、これまでの審査会合におけるコメント、地下構造モデルの位置付け、
0:02:08	地盤減衰に係る追加調査、それと今後の審査スケジュールの順でご説明させていただきます。2 ページ以降が、これまでの審査会合にてコメントになります。
0:02:19	4 ページのナンバー 13 から 15 に、7 月 1 日の第 1057 回審査会合のコメントを追加しております。7 月 14 日のラップ面談において No.13 から 15 までのコメントについてご説明させていただいておりますが、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:36	No.13、
0:02:38	について、プラント側のプラント側を含めた審査全体のスケジュールを示すこととしておりましたけども、ラップ面談でプラント側も含めた全体のスケジュールというそこまでの意味はないというような、
0:02:50	お話もありましたので、審査全体を見通した上でスケジュールを示すことと、記載させていただいております。
0:02:57	また、No.15 について、保守性を示すこととしておりましたけども、先日の面談でもご説明しておりますが、今回の資料参考 3 で
0:03:09	のところで、最後に地下構造モデルの妥当性確認を実施する旨記載しております、妥当性の方がいいかなと考えまして妥当性を示すことと、被災しております。
0:03:20	右側ですね、対応状況のところですけども、今回、ナンバー7 の地下構造モデルの位置付け、
0:03:29	それと、ナンバー13 のスケジュールについてご説明させていただきます。
0:03:34	ナンバー14 のコメントに関連しましてですね、地盤減衰に関するナンバー1、ナンバーツー、No.8 については、次回以降、改めてご説明させていただきます。
0:03:48	続きまして、5 ページ目で、地下構造モデルの位置付けについてご説明させていただきます。6 ページですが、
0:03:58	評価では、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動の断層モデルを用いた手法による地震動評価において、長周期体の理論的手法による評価を対象として地下構造モデルを設定しておりました。
0:04:11	上のほうに記載しております。当社の基本スタンスに基づきまして今回、清岡の地下構造モデルをベースにですね、最新の知見観測記録を取り入れ、精度信頼性を向上させて
0:04:24	この評価により、地盤減衰を精緻化した地下構造モデルを設定しております。今回新たに設定する地下構造モデルについてですけども、標準応答スペクトルは周期 0.02 秒から 5 秒までの応答スペクトルで定義されていますが、基本地下構造モデルは、
0:04:42	長周期体における理論的手法による評価を目的として設定していたため、短周期体も含む、地震動評価を目的として、地盤減衰を、
0:04:52	検討しております。今回の検討では、1 ページに示します、鉛直アレイの地震観測記録や、最新の知見を整理し、取り入れ精緻化し、新たな地下構造モデルを設定しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:05	また、追加実習した、
0:05:08	ボーリング調査結果等を基にですね、表情通すというの、モデルの妥当性を確認することとしております。7 ページにつきましては、敷地地盤における鉛直アレイによる地震観測について、以前もお示しした資料をつけてございます。
0:05:25	8 ページになりますけども、今回取り入れた知見、新たな知見や考え方について、以前もちょっとお示ししておりますが、今回追加調査に関係すること、ところを追記しております。
0:05:38	下の二つが追記したものになります。一つ目が、追加ボーリング調査、減衰測定になります。
0:05:46	減衰測定結果から、地盤減衰の妥当性を確認し、地盤減衰の確認多面化を図ると。
0:05:53	追加ボーリング調査から設定した地下構造モデルの妥当性を確認し、地下構造モデルの確認のためん化を図ることとしております。
0:06:02	二つ目が、岩石降雨については、減衰測定により、減衰測定結果から、地盤減衰の妥当性を確認し、地盤減衰の確認のため化を図ることとしております。
0:06:14	9 ページになりますけども、こちらで地下構造モデルの位置付けについて整理しております。
0:06:22	評価の地下構造モデルと今回新たに設定しましたモデルの二つのモデルがありますが、これらの二つのモデルについては、検討の目的に応じてそれぞれ設定しております。
0:06:33	清川の地下構造モデルについては長周期体のみ地震動評価への適用を目的に、左下の表の通り、解放基盤表面から地震基盤以深までの、
0:06:44	深いところまで設定し、断層モデルを用いた手法のうち、理論的手法による長周期体の評価に用いております。
0:06:53	一方、標準応答スペクトル用モデルにつきましては、短周期体も含む、地震動評価への適用を目的に、右下表の通り、解放基盤表面から地震基盤相当名を含む層までを設定しまして、
0:07:08	標準応答スペクトルを考慮した地震動評価に用いることとしております。これは目的の違いによって二つのモデルを使い分ける、既許可の地下構造モデルを残すというような方針としております。
0:07:22	10 ページ 11 ページにつきましては参考として以前もご説明しておりますが、許可の地震動評価について整理しております。10 ページが、特定

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	しての地震動、11 ページが特定せずの地震動と、免震構造施設を対象とした地震動に関する資料となっております。
0:07:39	10 ページの特定下の方ですか。
0:07:42	ええ。
0:07:44	応答スペクトルに基づく地震動評価では地下構造モデルを使用しておりません。断層モデルを用いた手法による地震動評価では、短周期体を経験的グリーン関数法、長周期体を理論的手法を用いておりまして理論的手法への適用目的に地下構造モデルを使用しております。
0:08:01	また、ハイブリッド合成法の短周期は、経験的グリーン関数法の妥当性検証のため、統計的グリーン関数法を実施しておりますが、こちらにも、地下構造モデルを使用しております。
0:08:13	特定しての基準地震動 $S_s - 1$ は、応答スペクトルに基づく地震動評価を行って策定しております。
0:08:21	$S_s - 1$ につきましては、断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を上回るため特定しての基準地震動は $S_s - 1$ で代表しております。
0:08:31	よって $S_s - 1$ には直接地下構造モデルを使用しておりません。
0:08:36	11 ページになりますがこちら、特定せずの方ですけども、運動部 6.5 程度以上の方は、該当ありませんで、 $AMW6.5$ 程度未満の方は、留萌の地震を選定しておりますが、
0:08:49	地下構造モデルを用いておりません。
0:08:52	留萌の地震を踏まえて $S_s - 2$ を策定しておりますが、こちらについても地下構造モデルは直接使用しておりません。
0:09:01	電信構造施設を対象とした地震動についてですが、基準地震動として $S_s - N$ を策定しております。地震動評価については、琉球海溝におけるプレート間地震を対象に、統計的グリーン関数法と理論的手法による地震動評価を実施しておりまして、地下構造モデルを使用しております。
0:09:20	$S_N L$ は、断層モデルによる地震動評価を上回っておりますので、 $S_s - N$ 自体には、直接地下構造モデルは使用しておりません。
0:09:31	12 ページ以降が追加調査及び今後のスケジュールになります。9 月 5 日の面談のですね資料ベースに、ボーリングの進捗を反映させていただいております。
0:09:43	12 ページです。住民、
0:09:47	13 ページですけども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:50	先日は、8月末時点で、記載しておりましたけども、13ページにつきましては、
0:09:58	9月15日時点で、更新しております。
0:10:02	で、これ、9月15日なので、ちょっとまた時間が空いてますけどQsの案については現時点では、屈伸が完了してございます。
0:10:11	14ページですけども、先日の面談でもお示ししました通り、
0:10:17	ボーリング孔内での火打測定の概要をまとめております。
0:10:22	こちら変更ございません。
0:10:24	続きまして15ページに、岩石コアを用いた減衰測定ということでこのページをちょっと新たに追加しております簡単ではございますけども、岩石コアの層減衰測定方法について簡単に追加しております。
0:10:38	このような図に示すようなシステムでですね、超音波試験に基づいて
0:10:43	測定をして、Q値を評価するというようなことになります。
0:10:50	続きまして17ページ18ページになりますが、追加調査に関する当初の計画と進捗になります。
0:11:00	当初計画につきましては先日の面談、
0:11:03	でもお示ししました通り、の内容になっておりまして、
0:11:09	変更はございません。
0:11:10	進捗状況につきましても、最新の進捗を踏まえてですね、若干ちょっと修正してるところはございますけども、結果的な、最後の方ですね。
0:11:23	取りまとめが11月末と。
0:11:26	ということで、そこについては、変更はございません。
0:11:34	19ページは、
0:11:37	17ページ18ページを踏まえまして、
0:11:44	今後のスケジュール、今回、今後の審査スケジュールについて記載しております。前回の面談と変わらずですね、11月末に地盤減衰に関する資料提出、
0:11:55	12月に会合と、というような流れを考えてございます。
0:11:59	先日の9月5日の面談時から変わったところとしましては、本日の地下構造モデルの位置付けと地盤減衰のヒアリング、
0:12:10	そして10月上旬の審査会合というところを新たに追加してございます。
0:12:16	20ページにつきましては、7月1日の審査会合におけるスケジュールを参考として記載してございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:24	で、最後になりますけども参考③ということで、先日の9月5日の面談でも、最後にご説明し、
0:12:33	使っていただきましたけども、追加調査結果が出た後の検討イメージについての資料になります。
0:12:40	ちょっとこちらはですね、前回とほぼ前回というか、9月5日の面談から変わりませんので、割愛させていただこうと思います。
0:12:50	仙台については以上でございます。もしよろしければ、このまま引き続き、現在の方を仙台との差分を中心に、ご説明させていただきますけども、よろしいでしょうか。
0:13:04	はい、結構ですどうぞ。
0:13:06	はい。それでは続けてT T値 009 の原価についてご説明させていただきます。1 ページの目次につきましては川内と同様の構成にしております。
0:13:18	3 ページが、これまでの審査会合におけるコメントになります。川内と同様にですね7月1日の審査会合のコメントをNo.7 から9 に示してございます。
0:13:30	それと、ナンバー8のコメントを踏まえまして地盤減衰に関するアンバー11については次回以降改めてご説明ということにさせていただきます。
0:13:40	5 ページにつきましては、仙台と同様ですので、割愛させていただきます。
0:13:45	6 ページにつきましては、
0:13:48	は、玄海の鉛直アレイの地震観測網になりますけどもこちらも以前お示しした資料をおつけお付けしております。
0:13:56	7 ページと8 ページについては川内と同様の記載になりますけども、8 ページの方で二つの地下構造モデルの位置付けについて記載しておりますが、
0:14:06	許可のモデルと標準応答スペクトルモデルは、検討の目的に応じてそれぞれ設定する旨、記載しております。
0:14:15	金ページ10 ページは参考として、これも以前、ご説明しておりますが、許可の地震動評価について整理しております。先例との違いですけども、断層モデルを用いた手法では、経験的グリーン関数法、
0:14:29	経験的グリーン関数法と理論的手法のハイブリッド合成法を実施しまして、経験的グリーン関数法の結果の方が、ハイブリッド合成法上回るため、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:40	経験的グリーン関数法による評価で代表させております。
0:14:45	上縁を南断層と、竹木場断層の断層モデルを用いた施工における経験的グリーン関数法による評価結果のうち、 S_{s-1} を上回るものとして S_{s-2} 、 S_{s-3} を策定しております。
0:14:59	これら、 S_{s-1} から S_{s-3} につきましては、直接地下構造モデルを使用してございません。
0:15:06	10 ページは、特定せずのほうになりますけども、仙台との差、差異としてですね、 $M_w6.5$ 程度以上の地震として鳥取県西部地震の賀祥ダムの記事を S_{s-5} として策定しておりますが、
0:15:20	土門の S_{s-4} も含めてですね、特定せずでは、地下構造モデルを直接使用してございません。
0:15:26	11 ページ以降が、
0:15:29	追加調査、今後の審査スケジュールの説明になります。
0:15:34	12 ページにつきましては9月15日時点の進捗を記載しておりますが、90-2については現時点では不振が完了している状況でございます。
0:15:44	13 ページ 14 ページにつきましては川内と同様の記載ですので割愛させていただきます。
0:15:52	15 ページ 16 ページですけども、こちら当初計画については先日の面談時から変わっておりませんので割愛させていただきます。今後の見通しのところもですね、最新の進捗に変更しておりますけども、資料の取りまとめ時期は先日の面談から変更なく11月末を予定しております。
0:16:14	15 ページ 16 ページの追加調査を主の進捗を踏まえまして17 ページが、今後の審査スケジュールの
0:16:22	なりますけども、川内と同様ですので割愛させていただきます。8 ページが、参考の②ということでこれも7月1日の審査会合における新スケジュールを参考として記載しております。
0:16:36	19 ページ以降が、参考③ということで川内と同様の追加調査結果の検討イメージということで、付けさせていただきますが、割愛させていただきます。
0:16:49	すいません玄海の説明については以上でございます。
0:17:00	はい。では一旦これで区切らせてもらいます。
0:17:08	何点か確認をしていきたいんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:12	今一応コメント回答今回ご説明いただく部分と、次回以降にご説明ものによっては改めてご説明っていうところでここはこれで良いかなと思うんですけど。
0:17:27	と、6 ページですねこれ前回ヒアリングの時、ラッパーとかヒアリング時にも申し上げてるんですけど、
0:17:35	これ結局、
0:17:37	発電所の地下の構造は、指針芯は一つしかないはずで、それがなぜ二つ存在するんですかっていうところは、これは審査の進捗を
0:17:50	四半期 7 月ですかね、前回委員会に報告した際にもそのような話が出ておりました。
0:17:58	これ既許可のモデルは徴収期間を理論的手法にやる際に評価する際に使いましたと言っていて、今回のものは、短周期体も含む、なので長周期も短周期も全体をカバーしますと言っていて、
0:18:15	で、
0:18:16	そうする等、今回だから、地下新しい地下構造モデルを含むとそれで長周期がもう新しい知見が拡充されるわけですね。
0:18:27	そうすると、これ評価のところ、別に強化の基準地震動を見直すと言ってるわけではなくて、既許可の方の地下構造、公平、
0:18:38	同じ二つの地下構造が、
0:18:40	並ぶ、どちらも妥当です、保守的ですけどというのが二つ並ぶ、長周期側の扱いってこれはどういうふう、
0:18:48	考えてるんですか。ここあまり資料上出てきていなくて、
0:18:53	これはこれそれはそれです。以上というふうになっていて、
0:18:57	何ていうか二つ地下構造が存在する問題については、
0:19:01	どういう考えでどういう方針なのかがちょっとあまり、この資料上書かれていないんです。
0:19:06	書かれていないのであれば会合でまたそこはご指摘しているということもあるのかもしれないんですけど、
0:19:13	ちょっとその部分が何ていうか一番引っかかってるんですけど、
0:19:17	地下構造の位置付けですね、その辺りはどうなんですか。多分川内も玄海も結局同じような、多少当時どういう形で来他のモデル使ったかとかっていうのは、多少は違いますけども、
0:19:30	同じ問題が残るんですけどこの点はどうなんですか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:35	はい。九州電力の本村でございます。今の地下構造モデルしてる二つというお話ですけども、確かに 7 月の審査会、審査会合じゃない規制委員会でも、
0:19:47	地下構造モデルは一つだとかいう話は、当然落ちしておりました。
0:19:52	我々としてはですね、申請時から申請書にも書いてますけども、考え方を変えているというところではございませんで、先ほどもありましたけど長周期と短周期ということで目的に応じて設定していると。
0:20:06	この地下構造モデルの議論での位置付けの議論としましては 1 月の会合でもですね、話題にありまして、当時、まとまりの話もありまして、
0:20:19	投資短周期側を含む統計的グリーン関数法を用いている友利と差別化する観点から、我々玄海川内ともにですね、短周期側、経験的グリーン関数法であって、
0:20:31	長周期は理論的方法であると、いうことを明確にしてですね、説明するような、説明することというようなコメントもいただいております。
0:20:42	またですね、先ほどちょっと表の比較でご説明しましたけども地下構造モデルの範囲の強化のモデルについては、地震基盤以深の深いところまで、今回のモデルは、地震基盤相当面を含む浅いところということで、
0:20:58	地下構造モデルが限定的になっているということもありまして、使い分ける方針とはしてございます。
0:21:05	長周期の扱いについてはですね、確かに今回、短周期の、
0:21:11	含んで長周期までというところで、観測記録を用いて、精緻化してるというのは、事実でございまして、長周期のところですけども、
0:21:24	今後ですね、新たに
0:21:28	地震動評価をする場合、今回、既許可のモデルは長周期、今回設定したものは、標準応答スペクトル用ということでやってますけども、
0:21:39	今後ですねまっさらな状態で地震動評価をするに当たってとなると、やはり今の企画評価の地下構造モデルの浅いところをですね、
0:21:49	今回の減衰見直しの 12.5 というところをあてまして、そういった複合的な、ちょっとガッチャンコしたようなモデルでやることにはなるかなとは思ってます。
0:22:01	今回、
0:22:05	設定したモデルでですね許可の地震動評価っていうところは、代表ケースですけどやってまして、そこら辺影響評価は、以前もご説明しました

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	通り、変わるものでは、基準地震動評価後、基準地震動が変わるようなものではないと。
0:22:21	いうところは確認してございますけども、今、立て付け上我々の主張としては、使い分けるといような方針で考えているところでございます。
0:22:33	すいませんちょっと直接的に回答になってないかもしれませんがちょっと我々の市長としては、以上でございます。
0:22:46	はい。規制庁佐口ですけども。いや、多分その辺の説明がうまくされていないのかなという気がしていて、私もちょっとやっぱりこの資料を見ると、
0:22:57	なかなか理解するのが難しいところがあって、やっぱり最初の 6 ページのその基本スタンスとして、これは御社がこれまでもずっと説明してきてますけど、
0:23:09	結局菅野。
0:23:10	地下構造モデルをベースとして、それに最新の知見だったりそれから観測記録、こういったものを取り入れた上でですね、この精度とか信頼性を、
0:23:23	向上させた評価っていうことをして、
0:23:27	結局、既許可のモデルを
0:23:30	精緻化。
0:23:32	地盤減衰をと書いてますけど、
0:23:34	という地下構造モデルを設定をしますよと言っているにもかかわらずですよ。
0:23:43	先ほど鈴木からもあったように 9 ページとか、
0:23:47	だと。
0:23:48	それぞれ、いや、目的に応じて設定しますと。
0:23:52	言っていて、当然、今回のモデルって、短周期体も含む、地震動評価ということで当然これ長周期も入っていて、
0:24:03	要は既許可の、
0:24:06	モデルってその目的云々というよりも今回のモデルに結局包含されるんじゃないですかという。
0:24:13	そういうふうに、我々、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:17	見てとれるんですよね今の資料だと、で、いやそうじゃなくって、既許可は、あくまでも御社のこの説明でいうと、菊川長周期体っていうところの評価に主眼を置いたモデルで今回は短周期体というところを、
0:24:31	主眼に置いたモデルなんですっていうんだったら、まだわからなくもないんですけど、今の説明だと、やっぱり清川モデルって今のモデルに含まれてますよね。
0:24:41	じゃあなぜわざわざその残す必要があるのか。
0:24:45	さらに、御社の最初のスタンスとしては、
0:24:49	より、要はいいモデルを今回つくるんですよっていうようなことが書かれているにもかかわらず、何か残すって、
0:24:58	何なんですかねっていうのが、やっぱり資料を見ると、
0:25:02	なかなかわかりづらいので、そこはですねやっぱり、
0:25:06	わかるような形で、御社の少なくとも考えがですね、
0:25:11	わかるような形っていうのと、やっぱり資料上、ちゃんとう、
0:25:15	最初に言ってること等、
0:25:19	順次説明していく中で、ちゃんとう本当に整合性がとれた考え方ですね。
0:25:25	になっているのかっていうのは、
0:25:27	もう少しですね、秘書部これ表現だけの話かもしれませんが、そういうところはですねもうちょっとわかるようにしていただきたいというのと、当然、ごめんなさいこれ仙台の、今
0:25:39	資料をベースにちょっと確認をさせていただいてますけど、当然ながら10 ページで統計的グリーン関数もこれやってますと、もうそれはあくまでもこれは、
0:25:50	経験的グリーン関数法の妥当性の、
0:25:54	検証のためにやってるんですと言いながらも、実はこれ、統計的グリーン関数なので、当然短周期の評価も含んでるわけなんですね。
0:26:03	で、もしこれが、いやいや、
0:26:07	もともとはその長周期用のモデルなので、
0:26:11	て言われると、この妥当性って、
0:26:14	何ですか、妥当性確認って、誕生日の確認ってできてないんじゃないですかとか、
0:26:19	そういう話にも、
0:26:21	これなるかもしれないですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:23	ていうところで、ちょっとやっぱり全体通して、少なくともこう話が、話というか考え方がちゃんと整合してるのかどうかって言うのが、まずわかるような形で、
0:26:35	ちょっと説明していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
0:26:48	いえ。すいません、明石でございます。
0:26:53	よろしいでしょうか。
0:26:54	今佐口さんからコメントいただいたところ、実はもうちょっと組織ベースのお話しますけども、当社の中でも議論し悩んだところでございます。
0:27:06	で、おっしゃる通りP、6ページに書いております当社の基本スタンスでさらにまずはモデルを精度信頼性を向上させると。
0:27:17	いう取り組みを最新のデータを用いてやったんだと、いうことを踏まえると、目的が違うといえ何で別々になるのと、いう疑問が生じるところはおっしゃる通りかと思います。
0:27:29	で、これ、正直に申し上げますけども同斜で一番悩みましたのは、この地下構造モデルの位置付けについて公開の会合で議論させていただきコメントをいただいたのが、
0:27:41	先ほど本村からも申し上げましたけども、大分前になりますけども1月の審査会合、
0:27:46	そこでちょっとご議論もありまして最後、当時の浅田管理官の方から、これもまた当時別府さんと北海道電力で議論になっていたところもあって、
0:27:57	北海道電力は統計的グリーン関数法をメインとして使っている。一方で九州電力は経験的グリーン関数を使って、このh許可のモデルというのは長周期Eについて理論解法A用いるというために、
0:28:14	作ってたものですよと、
0:28:17	標準応答スペクトルルートという短周期Aとは違う別立てとして新たに賞状とスペクトルという短周期を目的に、新たに地盤モデルを設定するんだと。
0:28:30	いうことをきちんと整理して欲しいというコメントをいただいておりますので、公開のコメントとしてはそれぞれのコメントが、我々受け取ったところでございますので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:43	まずはそのコメントを踏まえた整理として、目的に応じて使い分けると いう形を提示させていただいて、改めてちょっと議論をさせていただい ればと。はい。
0:28:54	規制庁の名倉です。
0:28:57	言われたからそれを表現しましたって、何かちょっとおかしくないです か。
0:29:04	ただし言われたからそういうふうに説明しましたと言いつつも説明でき ていなければそれは、
0:29:10	論理がおかしいってということにもなりかねないですね。
0:29:15	あそこはもう過去そう言ったからそうしましたっていう、実情っていう のは多分議論にならないと思うので、
0:29:23	それについては介護でしっかり議論しましょう。
0:29:30	はい。九州電力の明石でございます。承知いたしました。ちょっと余り にも我々の内容としての悩み実情でございましたけども、改めてちょっ と資料上の表現の問題もあるかと思いますので、しっかり整理した上 で、会合の場でしっかりご議論させていただければと思います。以上で す。
0:29:48	規制庁の名倉ですちょっと言い方が厳しかったかもしれないですけど、
0:29:53	今いろんな状況もサイトごとに状況が違うということもあるかもしれ ないですけど、まず、こちらがいろいろコメントしたところのラインで、
0:30:05	論理で説明をしようということであれば、それその論理で整合的にすべ て説明し切れるかどうかっていうのをまず検討させていただいて、
0:30:14	まずは、その九州電力としての、こちらのコメントも踏まえた九州電力 としての考えをしっかりとめていただければと思います。
0:30:22	ただ、それが実際、
0:30:25	全体を通してこちらが論理構成として成立してるかどうか、論理矛盾は ないのかという観点でも、当然見ますので、そういった意味で、
0:30:38	何か、こちらが論的に少し気になるところがあるのであればそれは、会 合で議論をするということになると思いますので、
0:30:48	九州電力としての整理をしっかりしていただきたいと思います。私から は以上です。
0:30:56	はい。九州電力の明石でございます。承知いたしました。今一度整理の 上ご説明、ご議論をさせていただきます。以上でございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:09	はい。よろしくお願いします。多分まず御社のきちんと方針を決めて、決めて多分決まってるんだと思うんですけど、それをしっかりと資料の方に書いていただかないと、
0:31:19	お互い議論にならないので、
0:31:21	ですね、そうすると、ちょっと先ほどの6ページ側の方に戻っていただいて、
0:31:30	ちょっとこの評価モデルベース2と言ってるのとベースにドイツのところはちょっとまたこれは資料として、また考えていただきたいんですけど、7ページ8ページはすでにお話伺ってる話で、
0:31:45	ちょっと9ページのところなんですけど、ちょっと先ほどもうご説明があったかと思うんですけど、
0:31:52	これ今回標準応答スペクトルように地下構造モデルを送っていて当然その、地震基盤より下がないので、
0:32:02	これは地下構造として抱き共管のところ、先ほどもあったんですけど、何か地震基盤より下は許可のものを使って、
0:32:13	くっつけたもので、もし評価をですね、許可の地震動の断層モデルの方で、
0:32:18	長周期側の方をですね、評価をもし、評価っていうかもし計算をするとすると、
0:32:25	標準応答スペクトルを考慮して右側の地下構造モデルだと、地震基盤より下がないので、このまま右のものは使えなくて、そうすると、2018
0:32:37	、5メートルより深いところは、他の地下構造モデルをスライドさせてきて、
0:32:44	標準音スペクトルの地下構造モデルに、それを付け加えつけ足して、
0:32:50	計算をすれば、
0:32:52	市岡の長周期側の地震動の評価は、強化とか計算は
0:32:58	できますと、やろうと思えばできますってそういう御説明なんですかねちょっとすいません私も構図図を示しながら、
0:33:08	お互いに見てるわけじゃないんですけど、
0:33:10	もしその許可の、地震動評価ですね断層モデルでは理論的手法の部分をも、もし計算したりして確認をするのであれば、
0:33:22	それは、標準を取って考慮した地震動、地下構造モデル、これを地震基盤より下の部分はこれ許可の地下構造モデルそのまま。
0:33:31	張りつけて組み合わせて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:33	地下構造モデルをつくって作ってというか作って、理論的手法で長周期側の方の評価をせざるをえませんか、評価のものを、
0:33:43	標準とスプールを用いた地下、考慮した地震動評価に用いる地下構造モデルはそっくりそのまま許可の、断層モデルの理論的手法には、
0:33:54	使えませんってそういうご説明なんですかね。
0:33:59	はい。九州電力の本村でございます。
0:34:03	10 ページの右側につけてるものが、標準応答スペクトル用のモデルになりますけども、おっしゃる通り、朝、深いところがございませんで、このまま理論的手法では使えないと。
0:34:14	もしくは理論的手法でやるとした場合、
0:34:18	下の方を付け加えたといいますか、もともとの左側の A 許可のモデルを基にですね、浅いところのこの右側の表の 12.5、E L - 200 メーターまでになりますけども、
0:34:30	そこを 100 から 12.5 にしたモデル。
0:34:34	を用いて長周期の理論計算をすることになると、いうふうに考えております。
0:34:43	はい、わかりました。
0:34:46	はい。です
0:34:48	はい。
0:34:50	もしあるとすればそうせざるをえませんかということですね。はい。
0:34:55	で、次にちゅ
0:34:58	ページは以下と 10 ページのところで朱書きは、地下の地下構造モデルを、
0:35:04	しようと言っていて、これ 11 ページのところは特に、
0:35:12	朱書きは、というのがないのですが、
0:35:16	ここ、
0:35:17	意味合いとしては免震の方ですかね S s - N の方ですけど、
0:35:21	ここの地下構造としては、
0:35:26	まずまず S s L を策定してこれはどっちでしたっけこれ。
0:35:31	は、
0:35:32	応答スペクトルのことですかねすいませんちょっと
0:35:36	大分古い許可の話なのでこの S s - N って応答スペクトルですよ。
0:35:41	断層モデルじゃなくて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:45	衛星電力のモトムラです。生成Lにつきましては、応答スペクトルに基づくという評価で、設計を藤スペクトルになります。なので断層モデルを直接S s - Nにしているかっていうとそうではございません。
0:35:59	免震構造のこのS s - Nを策定するにあたって、断層モデルですね、琉球海溝におけるプレート間地震を対象にやってるんですけども、
0:36:10	こちらの断層モデルの評価で統計的グリーン関数法と理論的手法によるハイブリッドをやってございます。こちらについては、どちらともですね地下構造モデルがいるので、
0:36:22	こちらについては、先ほどの評価のモデルですね、それを地下構造モデルとして使っています。
0:36:30	すいません前のページですね、
0:36:34	①応答スペクトルに基づく地震動評価の代理達の手法、S s 案を作りました。
0:36:40	これに相当するものが、免震のところで、定率費1ポツ一つ目のポツのことを、
0:36:48	言ってるんですよ。
0:36:52	単純に見づらかっただけなんですけどで、都丸で前の10ページでいう②の断層モデルを用いた手法による地震動評価これに対応するところが、
0:37:03	琉球会合におけるプレー、管地震を対象に断層モデル事業化しました。
0:37:11	ここでは、地下構造モデルを強化地下構造モデルを、
0:37:18	使ってるんですよ。
0:37:22	はい。はい。九州電力のモトムラですそうです。はい断層モデルでは、使っております。
0:37:28	で、
0:37:30	これらトータルで見たときに、
0:37:32	両方を比較ですか。それ、これで両方を比較すると、
0:37:37	S s L S s - Nの波源って、これは琉球海溝におけるプレート間地震ではないのでしたっけ。
0:37:47	S s - Nの検討におきまして琉球海溝におけるプレート間地震というのを対象としてございます。S s L自体は、応答スペクトルに基づく手法に基づいて包絡して設定してございますけども、
0:38:03	すいません。はい。断層モデルを比較すると、断層モデルの方がちっちゃいので、S s - Nはそれで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:13	応答スペクトルによる手法で代表させてと。
0:38:16	というところで、断層モデル評価を $S_s - N$ にしているものではないということです。
0:38:22	あれ S_s ちょっと S_s
0:38:26	$S_s W A N$ を作る時には、琉球海溝におけるプレート間地震、
0:38:34	応答スペクトルに基づく地震動評価をやったんでしかやってなかったんでしたっけ。
0:38:42	$S E$ 参集電力なんですけど、 $S_s - 1$ につきましては特定支店の方では、琉球海溝は考慮しておりません。もう、琉球海溝は距離がかなりそういうところにありまして、マージした地域の地震動レベルについては
0:38:57	あまり影響がないということはわかってまして検討地震としては選定しておりません。ただし、琉球海溝の地震となると、地震の規模がかなり大きい M_w ぐらいの
0:39:09	ものを考えてまして、聴衆 $S_s - N$ については長周期体に着目した地震動になりますので、長周期体については、この琉球海溝の
0:39:20	地震動もですね、影響するのではないかとということで、
0:39:27	$S_s - N$ の検討においては琉球海溝におけるプレート間地震を検討の対象としているというようなところでございます。
0:39:36	わかりましたので、何か琉球海溝におけるプレート間地震を対象にが断層モデルだけにかかったたので、すいません。
0:39:44	スッと入ってこなかったただけなので、
0:39:47	富田先進を考慮した基準地震動これを検討するにあたっては、
0:39:55	震源特定してでは落としていた琉球海溝のプレート間利子でまずこれを
0:40:03	応答スペクトルの地震動評価をやって、当然ながら短周期なんて大した地震動になってなくて、長周期側だけ、いわゆる震源特定市の方よりも若干でかくなっただから確か、
0:40:16	なので $S_s L$ 設計応答スペクトルの $S_s L$ を引き直して、
0:40:23	断層モデルを用いた手法による地震動評価今書いてある通りですねや、同じくその琉球海溝におけるプレート間地震を対象に、
0:40:31	応答スペクトルの評価と断層モデルの評価をやって、
0:40:35	応答スペクトルの評価の方は
0:40:38	S_s マイクの長周期が若干だけ出るは見れるので、
0:40:42	$S_s L$ を聞き設計応答スペクトルちいきました。断層モデルと比較したらそれは下回ったんで、断層モデルの方は採用さしませんでしたと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:53	最終的に S s L には地下構造モデル費とか地下構造モデルは使ってます。その評価の過程では使いました。
0:41:02	で、震源特定しての方は、
0:41:06	確か草加長周期側の理論的手法とあとはその妥当性確認のための経験力がそうですかっていう、ちょっとですね何か前のページで書いてある赤字書きとかですね工学書いてあるこの流れと、
0:41:21	何か免震のところとか同じような書き方になってないので、すみません非常にわかりづらかったので今聞きました。
0:41:36	規制庁サグチですけども、
0:41:38	正直言うんですけどね、
0:41:42	特に川内なんていうのは一番最初に審査をしていて、当然、当時の審査官含めてもうほとんど今、
0:41:51	いないという状況もあって、その当時の状況というのがなかなかこう把握しづらい。
0:41:59	面もあるんですけども、ちょっとそういう部分も含めて、私も当然
0:42:05	当時が向いたわけでもないですし、まとめ資料的なものを見返しながら、いろいろ
0:42:13	見ている部分も当然ありますし、11 ページのこれって、結局その S s L 自体は当然藤スペクトルで地下構造モデルを使ってないんですけど、
0:42:26	なぞモデル。
0:42:27	て言うのは、一応それを上回るように、ちゃんと設定されてますよみたいなその確認程度のもので、ただ、この地下構造モデルを使ってるんですけど、それは先ほど本村さんからちょっとご説明ありましたけれども、
0:42:43	いわゆるこの免震構造の周波数特性っていうのが、
0:42:47	いわゆる長周期体というところで、そういうところに着目したモデルということで、目的に応じてこれは使っていて最初の、
0:42:57	方でご説明、ご説明があった目的に合致したものと、
0:43:03	いう理解で、
0:43:05	いいですよ。
0:43:13	はい九州電力の本村でございます。先ほどの佐口さんからの話ですけども S s - N については当然長周期に着目して策定するので、長周期た
0:43:25	教科で設定してる地下構造モデルっていうのは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:29	整合するかなとは思ってます。短周期につきましては、地震動レベルとしてはもうかなり小さい、オーダー違うぐらいの S_s に比べては大浦地裁ぐらいの、
0:43:40	話になりますので、統計的グリーン関数法で計算してますけども、それほどもう短周期は関係ないかなというところですね。なので、
0:43:51	そういうふうに考えてございます。
0:43:56	はい。規制庁佐口です。ごめんなさい。私の
0:44:00	聞き方があまりよくなかったのかもしれないんですけど、別に細かいなんかところを聞こうっていう感じではなくて、あくまでも、9 ページとかで御社が書かれているこの、
0:44:11	その適用の目的っていうんですかね。うん。に、合致したものですよねという、この場合、11 ページの
0:44:22	免震構造施設を対象とした地震動っていうのは、企業間の地下構造モデルっていうのが、ちゃんと目的に合致したようなモデルですよっていうことを確認させていただきたかったんですけど。
0:44:41	九州電力の本村でございます。 $S_s - N$ の話につきましては、長周期体ということなので、そういうふうな使い分けができるのかなというふうに考えてございます。
0:45:12	はい。よろしいですか。ちょっとすみません本当の意味で今の名刺のところで多分同じ参考の、11 ページですね。これ多分-1 ページ以内に、
0:45:23	ページをふやさないように免震のものをですね、下の隙間にはめ込んだと思うんですけど、ちょっとその前の 10 ページと同じような流れでですね別に 10 ページほど長く、
0:45:33	丸々1 ページ使うことももちろんないと思いますけど、
0:45:36	ちょっと 10 ページとかあとその直上にある市特定せずの方もですね、こういう形で評価をして、
0:45:44	こういうふうに震度比較して最後、基準地震動 $S_s 2$ を作りましたとかですね、前のページの S_s 案を作って、
0:45:51	こういう比較をして A さんが最後残りましたとかって、
0:45:54	ちょっと同じような書き方で免震の方も変えてもらって、
0:46:00	1 ページ増えても構わないので、
0:46:03	はい。九州電力の本村でございます。おっしゃられる通りですねちょっと特定施設を特定せずの本で、 $S_s - N$ を記載してないというところがちょっとありますので、ちょっと政府の L をですね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:16	特定者と特定せずと合うような形で、ちょっと再整理したいと思います。
0:46:24	はい、お願いします。
0:46:26	あとですね次す系スケジュールというか、スケジュールパートの方なんですけど、
0:46:34	すいませんこれ、
0:46:36	特に半月ぐらいで、
0:46:39	大幅に何か進捗、さらに遅れる、実は早く済むとか多分この辺は特になさそうだったんで、
0:46:47	あとそのボーリング、14 ページのボーリング孔内この話は前回図もあったしこういう測定をしますということで、別に
0:46:58	特に一般的なやり方のものなのでいいんですけど、これ 15 ページの
0:47:03	過去のこんな機械を使って測定しますっていうのをこれを書いた。
0:47:07	イトウはこれなんですかね。
0:47:11	いやこんな
0:47:14	機械を使うんですっていうところだけすいません示されてもですね、いや、こういう機会、こういう値をとって、こういう手法に基づいて、
0:47:24	いわゆる一般的な手法なのかどこか研究報告がある手法なのか何か民間規格なのか、こういう手法を使うと、こういう最後評価ができるんですとか、
0:47:36	何かその先の話を書いてあるならまだしもですね、単純にこの機械使いますっていうところだけしかなくて、
0:47:43	これだけ見せられてもらうっていうのがあるんですけど、
0:47:50	九州電力の本村です。P 15 ページの岩石項の測定についてはちょっと機械を説明したいわけではなかったんでちょっと資料とそういうような、
0:48:02	印象を持つ、持つことは、想像できるので、ちょっと記載をですね、ちょっと考えたいと思ってます。超音波で測って、どういう手法でやって、減衰を評価するとか、
0:48:16	そういうところは記載させていただこうと思ってます。
0:48:20	以上です。
0:48:24	規制庁谷です。今のお答えで、殊、わかりましたということなんですけど、前回私が言ったのに対して、何ていうんすかね 14 ページのようなものを、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:36	岩石コアでもこうやり方みたいなのをちゃんと説明できないんですかっていうようなことを言ったのをそのまま、こういった形で、14 ページに対応するような、
0:48:46	資料付けてくれたのかなと思うんですけど、さっき鈴木さんも言ったようにですね、そうじゃなくて、
0:48:55	どういう、どういう検討をされるのかっていうのがわかるようにと言ったつもりでいはいたので、
0:49:03	さっきの答え、9 電からお答えありましたけど、よろしくお願いしますということとこれってあれなんですね何か。
0:49:10	私もなんか
0:49:12	前回のヒアリングの後でちょっと調べて、この電中研の研究っていうのが何か 2000、
0:49:19	いや、いつだったかな。
0:49:22	電中研の佐藤さん。
0:49:24	が書いてる時、地震動評価のための、地表に近い岩盤における減衰の測定とそのモデル化っていう、これ、こういったのを参考にするっていう、
0:49:33	ことだったんですかねそれ、それでよかったらもう、それをこうなんかちょっとみようかなと思ってるんですけど。
0:49:42	九州電力の本村です。電中研の佐藤さんが、いろいろ論文等で書かれていますけども、そういった減衰測定減衰評価、岩石コアを用いたですね、そういうことをやられていますのでそれを参考に、
0:49:56	やってるところでございます。
0:50:01	はいいややろうとしてること、ここを見ればやろうとしてることがわかるんだなというのはわかりましたけど、
0:50:09	かいつまんで書くとかですね、今のこのページだけが載ってても、あんまり意味がないかなと思いますので、かいつまんで書いてもらうか
0:50:22	どうでもいいページとして残すかお任せします。はい。
0:50:31	はい。九州電力の本村です。ちょっと再整理させていただこうと思っています。
0:50:39	はいちょっと検討お願いします規制庁スズキですけど 14 ページはですね、こういう形で測定しました。その測定できた結果をもとに、
0:50:50	追加調査結果の検討イメージという多分 23 ページの右側の、
0:50:57	結果を、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:00	雨。
0:51:01	こんで孔口に使われるんですねっていうのが、
0:51:04	スーッとイメージが入ってくるんですけど、岩石コアの方は、この測定をして、
0:51:10	じゃあどうなるのが全く見えないので、なので、
0:51:14	その電中研の佐藤氏の方法ですか。
0:51:17	その事細かに、今回ご説明をいただいて、いやその手法でいいのか悪いのかみたいなのところの議論を長々ともちろんないんですけど、
0:51:26	何のためにや、
0:51:28	いるのかが、
0:51:29	いまいちP Sのほうはわかるんですけど、
0:51:32	含水機関の方がわからないのでちょっと測定のこんな機械を使って測定しますだけちょっと示されても、
0:51:39	不十分かなという趣旨でございます。
0:51:45	九州電力の本村でございます。承知しました。岩石コアのですね、減数測定結果の使い道って言いますか、どういうふうに使うかにつきまして
0:51:59	はですねちょっと22ページ、参考の③の22ページになりますけども、
0:51:59	こちらの下の方で、お示ししておりまして、今回のボーリング、今回、減衰岩石コアの減衰結果をですね、
0:52:10	E L - 200 メーターまでの範囲で、
0:52:14	コアを取ってですね岩石コアの減衰測定をしますけども、それを用いてですね、地震計があるところとないところみたいなのところの、
0:52:25	傾向分析とかですね、そういうところをしようかなというところは、イメージとしてはありますのでこういうふうやっていく方向で今ちょっと考えては
0:52:35	いうところでございます。
0:52:43	はい。なんでちょっと15ページのところにですね、その展示会の佐藤の方法を変えてまで書くか、さっき、今ご説明があった22ページですか。
0:52:56	こんとところに、こんな、こんな手法なんですっていうところを、若干書き加えるなり趣旨ですね。
0:53:04	やるかそこに、この間測定イメージの図をもっと圧縮して貼り付けるかとかやり方いろいろあると思いますけど、
0:53:11	その辺りは見せ方を考えてもらえればと思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:17	あとスケジュールそのものですけど、これはさっきもご説明あった前回面談の際にお聞きしたところからは、ここに変わってないですね 19 ページのところ。
0:53:30	これ改めてですけど、
0:53:33	前回ですね地震動、
0:53:36	模擬地震はのところの期間を圧縮することで後の帳じりが合うのですっていうところはこれは現時点でも変わらないですね。
0:53:48	九州電力の本村でございます。スケジュール関係については、
0:53:53	前回の面談からお話した話から、特に変更はございません。
0:54:03	はい。
0:54:03	ありがとうございます。
0:54:05	それでは仙台の方で、他、
0:54:10	ありますか。はい。
0:54:14	規制庁の名倉です。
0:54:16	ちょっと私から 2 点。
0:54:20	あります。
0:54:21	まず 1 点目ですけれども、能勢議論のところにも関連しますけれども、
0:54:27	19 ページのところ、仙台の後の 19 ページのところに、今後の審査スケジュール説明のスケジュールがあるんですが、
0:54:37	非常に 11 月下旬の資料の提出から会合それから、
0:54:42	そのあとの模擬地震は基礎地盤及び周辺斜面の安定性に繋がる場所のこのスケジュールが非常にタイトだと。
0:54:51	いうことは、一目瞭然ではあるんですけれども、
0:54:55	ちょっと
0:54:56	気になったのは本当にこれ実現性があるのかどうかというところ。
0:55:01	これは今後の事業者の検討次第だとは思いますが、少なくとも今回のヒアリングもしくはその会合のところで何を説明しておくべきなのか。
0:55:12	これは今後、非常にタイトな予定になることも踏まえて、なるべく重要なところはちゃんと説明しておこうとか、そういうふうなことがあるんだったら、
0:55:23	先ほどの手法的な部分で、これは規格基準とかにもう規定されてるような、一般的なことをやろうとしているのかそれとも、
0:55:34	研究ベースでいろんなことが紹介されている中でそういったものを参考としてやろうとしているのかとか、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:41	それをどういうふうに流用しようとしてるのか。
0:55:45	いろんな配慮事項とかあると思うんですけど、岩盤の付近性に減衰が含まれないことに留意した検討とかって、何を意味してるのかっていうのもあるんだけど、
0:55:55	こういった考えとか今、前提としている手法とかそういったものに関して、今のうちに説明しておこうとか、そういうふうに考えられているのであれば、
0:56:07	例えば 1919 ページのこの非常にタイトなスケジューリングも何とかやろうとしてるんじゃないかっていうふうに思うんだけど、ちょっとそこら辺がですね姿勢として、
0:56:17	あまりこうヨックン見られないというところがちょっとあって、これがちょっと私心配してるところです。
0:56:24	ということで今回会合は可能な範囲で、方針とかですね説明していただくとして、今後どういうふうに説明をしていくかっていうことについては、
0:56:36	もう少しこう、何て言うのか、こういったタイトなスケジューリングを踏まえた、説明の仕方を工夫しているかどうかっていうところはちょっと姿勢としてよく見せていただきたいなということがありますこれが 1 点、これはコメントです。
0:56:52	コメントっていうか所感です。それであと 1 点だけちょっと質問なんですけど、
0:57:00	主、
0:57:02	千田伊能資料でいくと 3 ページのところ、
0:57:08	3 ページから 4 ページコメントが書いてあって、玄海の方は 3 ページの方にコメントが 1 ページに集約されてるんですけど、
0:57:16	ちょっと
0:57:18	俯瞰して両方比較したときに、
0:57:20	第 983 回の審査会合っていうのは、おそらく仙台だけが出ていたので玄海はまだ出ていないから、コメントとしては限界対象に入っていないのかもしれないんだけど、
0:57:33	983 回で指摘した内容で、仙台だけではなくて玄海にも共通的にかかるようなコメントについては、ちょっと今後扱いをしっかりと検討していただきたいなと思います。
0:57:48	仙台だけの特特徴。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:51	もしくはサイト特性によるものであれば、玄海に反映する必要はないんですけれども、
0:57:57	共通的に関係するもの、サイトによらない指摘に関しては、どういうふうに対応していくのかということを今後、
0:58:08	ちょっと考えていただければと思います。
0:58:13	2点目について何かありますでしょうか。
0:58:19	はい九州電力の本村でございます。確かにですね仙台の方が先に設置変更許可申請を出しているところもあって、6月11日の会合については、仙台だけになってます。
0:58:33	我々ももう、仙台の話もですね、玄海のとも共通するところはあると認識してまして、
0:58:43	ちょっとコメントリストには整理してませんでしたけども、そういった観点で玄海川内同じような感じでですね、ご説明をしようと考えていたところでした。
0:58:56	ちょっと扱いについてはちょっと社内で検討し、したいと思ってございます。以上です。
0:59:05	規制庁の名倉ですわかりました対応は準備してるってということで、共通性があるところに対してコメント回答するときに、仙台と、あと仙台だけではなくて玄海についてもこれについては、
0:59:17	回答を含めていますということが今後わかるようにしていただければそれでいいのかなと。
0:59:24	思いますので、このところはちょっとわかるようにしていただくということでよろしくお願いします。私からは以上です。
0:59:36	はい、他仙台の方は、
0:59:40	惜しいですかすみませんちょっと最後付け加え正解とか資料上に反映してくださいって意味ではないんですけど。
0:59:47	一応前回ラップアップのときにですね別にここにプラントの審査会合耐震設計の会話をいついつですっていうところまで書いていただくそこまでの意思のものではないとは申し上げたんですけど、
0:59:59	これプラン、社内で設計側にですね、地震動を
1:00:04	引き渡して設計側の方での検討を、
1:00:08	する。
1:00:09	デットラインは意識して、一応このスケジュールですね、割とそこの辺に余裕があるのか、この茂木理事が地盤安定解析これはそれなりに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:21	断面として評価すると時間がかかるんで、これは模擬地震はのところが、ずるずると後に行くと困りますねというのはあるんですけど、設計側は、その安定解析より地盤安定解析よりも、
1:00:37	設計側の方は、まだデッドラインというところでは余裕があるということなのか。
1:00:43	安定性評価よりももっとよりデッドラインが厳しい、いいのか、同じぐらいなのか、その辺りは相場感が、そこは持ってこのスケジュール組んでますかね。
1:00:56	九州電力の本村でございます。先日のメンバーのときにも鈴木さんから、同様の趣旨でご質問がありまして、社内でもちょっと
1:01:07	議論してまして、プラント側の審査については、S s が確定する今2月末、考えてますけども、それ以降、基礎地盤の解析審査と並行して進めていくようなスケジュールを考えておりまして、
1:01:22	審査機関としても半年程度というところになるかと思いますが、その辺りで収まるんじゃないかというようなふうに考えているところでございます。
1:01:36	はい。とりあえずこの安定解析の方にかかる期間 o f f を基にですね、そちらの方のデッドラインを意識しておけば、耐震設計側の方のデッドラインもおのずと
1:01:47	カバーされると、そのぐらいで、家のイメージでとらえておりますはい、ありがとうございました。
1:01:53	では、そうすると玄海の方なんですけど、玄海の方もですね、
1:01:59	いわゆる既許可モデルの位置付け、
1:02:05	ですとか、その辺の話は先ほど川内と同じなので長周期のみのモデルですとかですね、五つ、実は妥当性確認で経験的グリーン関数法で妥当性確認してる。
1:02:19	それはじゃあ妥当性確認できてないということですかとか、
1:02:23	若干その書きっぷりにですね。
1:02:28	もう少し工夫した方がいいかなという、その辺の話は1000、玄海の方も共通でして、
1:02:37	ただ玄海の方は、
1:02:40	これも8ページとかですねこれもし影響確認みたいな形で評価するならこれもだから先ほど川内と同じように、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:51	今回標準とスプレッドの方の地下構造で置き換えた部分、これをまた長周期の理論的手法による地下構造モデルに、その変わった部分だけ、はめ込めば一応計算はできると、そういうものです。
1:03:03	ということで、この理解はしました。
1:03:07	多分そういうご説明なんだと思いますけど。
1:03:11	1000、前回の方は9ページですけど、
1:03:18	これは、
1:03:22	h r 断層モデルの
1:03:25	進捗表こちらは、
1:03:32	統計的監査、
1:03:37	ここも結局基準地震動に、
1:03:41	選ばれるものとしては、
1:03:45	最終的には経験的グリーン監査法の方が選ばれたんで、
1:03:50	今のところの基準地震動には地下構造モデルを使われた地震動評価は入ってきませんと。
1:04:01	当時と地下構造モデルを使ったもののS S、既許可のS sとの関係はこれで、
1:04:08	どういう位置関係性なのかはわかりましたが、こちらも
1:04:13	結局、今回地下構造見直すもの。
1:04:17	もう位置付けとしてですね。
1:04:20	どうするのかって言うのは、
1:04:22	また考えてもらいたい。ちょっと表現はきちんとしてもらいたいですし、
1:04:27	計算はできるんだけど、その地下構造を置き換えるのを聞き、置き換えて評価するのか念のために、許可の方のですね、S sにするにはなりませんでしたが理論的手法とか、
1:04:42	経験的グリーン関数法による妥当性確認とか、この辺のところを念のために、
1:04:47	評価をしてみるのかとか、ちょっとそこら辺の扱いも含めてですね。
1:04:52	考え、説明できるようにしてもらえればと思いますので、
1:04:57	ちょっとそこら辺、最終的に、地下構造としてはこうだという懸念のため確認をするのかそれもやらなくていいのかとか、そこら辺も含めてご説明いただけ
1:05:07	議論なったときにですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:10	そちらの考えを聞けるようにしておいてください。
1:05:15	特に限界でサブになるところと区別限界でいうところはあまりなさそうなので、
1:05:24	玄海固有で何か聞くことがある方いれば、
1:05:30	なければ状況下の方にすいません移ろうかなと思うんですけど。
1:05:45	よろしいですか求心力さんのもし会合、今の標準応答スペクトルの方で会合にかけるに向けて、資料作りとして、
1:05:54	何か聞いておくことがあれば、
1:06:04	寄付電力のモトムラでございます。今日ですね今いただいたコメントを踏まえて、ちょっと資料の方検討したいと思っております。よろしくお願いいたします。
1:06:19	規制庁のナグラです。1点だけちょっと教えてください。
1:06:24	玄海の資料の16ページ。
1:06:28	9を見ると、
1:06:29	今後の見通しのところで、ボーリング孔内で9G湾については、
1:06:36	Q値の測定を、もうすでに終えていて分析を進めているところと、これが一番進んでいる状況かと思うんですが、
1:06:46	この状況っていうのは、今のところどんな感じなんでしょうか。
1:06:53	九州電力の本村でございます。スケジュールに記載の通りですね、9月の中ぐらいにQ値測定については、完了してます。今ちょっと分析をしております、
1:07:05	ちょっと今現時点で、どういう状況かっていうのははっきりは申し上げにくいんですけども、今までご説明した地盤減衰に関するご説明の内容がですね、変わるとかそういうところはないかなというような感じは持ってます。
1:07:20	ただまだちょっと分析中ですので、ちょっと他の日本の参考値とかを見ながらですね、ちょっと慎重に考えていきたいなというふうにはちょっと思ってるところでございます。
1:07:33	状況としては理解しました。私からは以上です。
1:07:44	はい。多分まだ1本だけ取っただけだし分析中なので、このコアを
1:07:51	踏まえると、9次はこうなりますとか、いう断言資料上断言することは多分難しいんだと思うんですけど、少なくとも、
1:08:00	玄海で言うと21ページですかね、ここで今、多分、現状の標準応答スペクトルをモデルとしてこういうものを置いてます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:07	でP S 検層の結果これでいいのか、ちょっと変わるのかっていうのはまあ、その分やってみて、
1:08:13	ですけれども、今のところ、この左側の
1:08:16	モデルを少しじくらないといけないっていうな結果は、今1本とれてるところでは、おそらく、
1:08:23	変わらないんだろかなあと。
1:08:25	そういう見通しですね。はい。
1:08:28	あとすいませんちょっと資料づくりどうするかというのは検討、御社の方で検討してみないと、ぱっと言えないと思うんですけど。
1:08:39	来月ですね我々も一部サイトちょっと元ちい調査とかですねそういうのも開き口なので、入る可能性があって、会合ってその毎週金曜日全部入れるわけでもないで、
1:08:55	ちょっと資料作りのめどが立った段階で、
1:09:00	どうしますかね介護をどの辺に出るかっていうのは、
1:09:04	そうそうなので、
1:09:09	あんまり長々と資料、
1:09:12	作りに時間をかけられても困るんですね、す。そこら辺は、今、短期間で簡単に力のできる手の加えようというところで、
1:09:24	検討いただければと思います。
1:09:26	今日が28なので、何て言うか今日、イメージとしては今日は会合前のヒアリングであと少し手直しして会合ですっていう、そういうイメージですみません
1:09:38	我々申し上げたので、何か長々きちっと検討は少し必要ですと言われると、なんですけど、スケジュール感としては、
1:09:47	こんな感じですか資料の手直し。
1:10:00	九州電力の本村です。今日のコメントを踏まえてちょっと資料、修正等あるかもしれませんが、そんなに長々と我々も時間かけてもというところはございます。
1:10:12	10月7日の会合を目指してですね、ちょっと資料の方、修正していきたいというふうに考えてます。大体資料の提出時期については、
1:10:25	ちょっと進捗にもよるかもしれませんが今のところ月曜日に、
1:10:30	規制庁さんの方に届くように、ちょっと準備はしたいなというふうに考えてます。
1:10:38	はい、わかりました。ではよろしくお願いします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:43	はいそれでは標準応答スペクトルの方のコメント回答これのヒアリングの方は、これで終了しまして、次に、長期評価のですね、影響ということで、
1:10:55	こちらの方のご説明伺おうかと思います。
1:10:59	こちらはですね今年の春に地震本部の方のですね、長期評価で
1:11:06	日本海南西部の海域活断層の長期評価これが初めて出ましたと。
1:11:11	あと、日向灘の方のですね実施こちらの地震活動の長期評価がアップデートされたってところがこれが出まして、
1:11:22	これが出ましたので、まず御社の方ですねこの知見の扱いについてお話を聞きたいということで、
1:11:31	比較ですね所前回5月ですかね、しか標準とスペックのヒアリングのに続いてですねこの話もあわせて、ざっとのお話を伺ってございました。
1:11:45	我々の方も5月の末に技術情報検討会こちらの方で、この長期評価の話は話題になってございまして、
1:11:56	その際にですね、ちょっと公開の大庭で事業者の考えを聞いてみましょうということで、法律の技術情報検討会の方で議論があったところがあります。
1:12:07	従いまして、おそらくその審査会合の場を、
1:12:12	ちょうど標準応答スペクトルの方で定期的に審査会合を開きますので、その場を使って、公開の場でお話を伺うという流れになろうかと思えますけれども、
1:12:22	今回ちょっと前回後が通ですねヒアリングで、の際に併せて伺っていて大分ちょっと間が空いてしまったので、
1:12:31	ご説明の方としては多少5月のですね、説明と重複するところがあるかもしれませんが、全体的なところからですね、ご説明もいただくように、アップデートした部分ではなくてですね、
1:12:45	全体的なところからご説明いただくようお願いをいたします。では九州電力の方から説明をお願いします。
1:12:55	はい。九州電力の徳永です。それでは、日本海、南西の海域活断層の長期評価第1班及び日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価第二版2課についての
1:13:10	仙台展開の影響ということで、ご説明を差し上げます。2ページ目をお願いいたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:17	2 ページ目の目次でございますが、1 ポツ目に、日本海南西部の海域活断層の長期評価の第 1 版二つ目に先ほど日向野南西諸島の長期評価の第 2 版という形で資料構成をしております。
1:13:30	この文字、目次に沿って資料をご説明を差し上げたいと思います。4 ページ目をお願いいたします。
1:13:39	まず、日本海南西部の海域活断層の長期評価の第 1 版の概要についてでございますが、今回、地震本部さんの方から、日本海南西部の海域に分布する活断層のうち、M7.0 程度以上の地震を発生させる可能性がある、長さ 20、
1:13:57	キロ以上の活断層を主な対象として、これまでに行われた調査研究成果等に基づきまして評価対象海域の海域活断層の長期評価を初めて公表されてございます。
1:14:09	下の方に、地震本部さんから公表された、西部域の 9 断層の絵を図示してございます。
1:14:18	5 ページ目をお願いいたします。
1:14:23	今回公表されたこの長期評価につきましてはこの下の表に示す通り、当社の評価も含めた各機関の反射断面及び海底地形データをもとに、
1:14:35	海域活断層を認定しているという状況でございます。これらの知見の J A と当社の既許可以降に公表された知見というのが、日本、下の表にもあります通り日本海地震津波調査プロジェクト、
1:14:49	及び海域における断層情報総合評価プロジェクトであることを確認してございます。
1:14:57	7 ページ目をお願いいたします。
1:15:02	このページでは、今回の長期評価の影響確認方針についてホームページで整理をしてございます。
1:15:12	既許可の評価につきましては下の左側のフローに記載が、記載の通りでございますけれども、当社の活断層評価にあたっては、既存の文献の調査を踏まえて当社にて実施した各調査を基に評価を実施してございます。また、
1:15:29	そのあとの地震評価、津波評価にあたっては、地震本部の断層長さを考慮した上で評価を実施しているという状況でございます。
1:15:39	今回の長期評価の影響確認につきましては既許可の評価フローに基づきまして、下の右側のフローに記載の通りのフローの沿ってスクリーニングをしていくと。
1:15:51	いうこととしております。具体的には、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:54	敷地周辺の活断層評価として丸右の①にあります通り地震本部と当社活断層評価を比較をして、影響確認が必要な断層を抽出すると。
1:16:05	実際に地震本部と既許可の評価を比較して評価の異なる箇所を整理するとともに、土岐柿木強化評価より断層長さが同等以下となるなど、
1:16:17	影響評価が不要と判断される断層、スクリーニングアウトするんですけどもそれこそ、評価が異なるものは、違うもの断層を抽出した上で、②として影響確認が必要な断層に関する整理ということで、
1:16:31	異なるものにつきましては既許可以降に公表された知見も含めまして地震本部の評価内容を整理すると。
1:16:38	さらに③ということで、基準地震動基準津波の影響確認ということで抽出した対象断層について既許可で設定しています基準地震動を基準津波の策定フローに基づいて、
1:16:52	基準地震動基準津波への影響を確認するというこの流れで、今回の影響を確認していこうというものでございます。
1:17:01	それでは9ページ目をお願いいたします。
1:17:07	既許可時に評価した断層と、今回の長期評価との比較として9ページには、既許可時に調査した文献調査等のところと、今回の地震本部との比較、10ページにつきましては、
1:17:21	都庁当社が評価した断層分物と、今回の地震本部との比較をしてございます。年、
1:17:29	9ページ目がですね、一番下の薄いオレンジの線が今回の地震本部になってございます。10ページ目が、青い線が今回の地震本部赤が、もともと当社の評価の断層と、
1:17:42	いうものになってございますけれども、
1:17:45	この、この二つの評価につきましては、概ね同じ位置に断層解釈がされているということでございます。それを一覧表に整理したものが11ページ目になります。
1:18:01	影響確認が必要な断層の抽出ということで、先ほどありました図示した地震本部の部分につきまして、
1:18:11	ほぼ同じ位置に当社が評価している断層を表、下の表の通り、比較対比をしております。
1:18:18	今回その対比の結果、資本さんと当社評価の評価内容が異なる場所として、赤枠で囲ってございますが、一つとして小野島近海断層体、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:30	もう一つが第 1 後藤田井断層体この 2 断層が、影響確認が必要だろうという断層として整理をしてございます。つきましては、この二つの断層を、知見の先ほどのフローに基づいて整理をしていくということと位置付けてございます。
1:18:47	12 ページをお願いいたします。
1:18:49	影響が確認が必要な断層とまず、小田島金海断層体のところでございますが、地震本部さんの方では、北西沖区間を 36 キロ東方期間 28 キロ、合わせて 63 キロの活断層として評価をされております。
1:19:07	一方起業家評価につきましては、下の表の下の図の通り、地震本部とほぼ同じ位置に、弊社、我々としては壱岐北東部の断層群及び警護断層体の北西部の一部を評価していると。
1:19:21	いう状況なんです、セグメントの位置がに差異が見られるというような状況でございます。地震本部につきましては、北西沖 31-1、東郷大城 31-2 の区間に、
1:19:34	において断層トレースのギャップ、断層トレースにギャップが存在することから連続した断層でなく区分けをされ、区分けをしているというものでございます。
1:19:44	当社の方につきましては 13 ページの方に、当時の審査資料を抜粋しながら記載をしてるんですけども、
1:19:51	当社の卸近海断層体とほぼ同位置に、我々としては 1 北東と K5 断層を 2a に認定しているんですが、
1:20:01	ここの断層につきましては公的機関の測線及び当社の音探記録をもとに、付けて 5 断層隊及び壱岐北東の断層群についてはそれぞれ地質構造が異なると。
1:20:14	ということと、警護断層体の北西延長部につきましては B 層の基底面がほぼ水平な平たん面をなすということで断層に伴う変状が認められない、大きくこの二つを持っ
1:20:25	二つをもって、連続しないという、異なる断層というふうに認定をしてございます。
1:20:34	ここまでの道路の嶋金海断層の地震本部と当社の評価の整理でございます。続いて第 1 号当貸の方を 14 ページに設置してございますが、
1:20:46	地震本部では、北部区間を 29 キロ、中部区間を 22 キロ、南部区間を 22 キロ、合わせて 73 キロの活断層として評価してございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:57	一方、また、地震本部の記載評価部の中においては、九州電力や、海域における断層総合評価プロジェクト、日本海地震津波調査プロジェクトによって、
1:21:08	活断層を認定しているんですけれどもそれぞれの断層の認定範囲が一致しないということで、今回の地震本部の長期評価ではそれぞれの違いを評価できないと判断し、それら全体を一覧、一連の活断層体としたと。
1:21:22	いうふうな記載がございます。一方、内野ききょうは評価においては、法的化の促進に加えて、当社の音探記録をもとに断層評価をし、北部化に対応する位置に、北西沖断層群約 34 キロ。
1:21:36	南部区間につきましては、仲通り嶋西方沖断層群 19 キロを評価してございます。その詳細を、それぞれ地震本部じゅ、当社評価の 15 ページ 16 ページに記載をしてるんですけれども、
1:21:50	今回地震本部が両プロジェクトを見ているということで 15 ページにはそのプロジェクトの知見をウエート引用して、断層分布図を落としてございます。
1:22:00	下の図のところにですね、緑のラインで引いているのが、海域における断層情報評価プロジェクトの断層、そして青いラインが日本海プロジェクトの断層、そして、薄井。
1:22:12	茶色のオレンジですね、野上日本海、長期評価ということで、これらを企画しますと、今回の地震本部さんが引いた断層線、第 1 号導体につきましては、
1:22:25	海域における断層総合評価プロジェクトの断層分布と最も類似していると、いうような状況でございます。なおこのエイト断層総合評価プロジェクトにつきましては、既往の音探記録をもとに、
1:22:38	地質構造に変位があるかつ、海底地形の変位を見られるものについて断層を特定しているというものになってございます。
1:22:46	一方 16 ページでございますが、既許可我々の評価としましては、公的機関の調査測線に加えて、当社の御田記録音探記録をもとに断層を解釈してございます。
1:22:57	具体的には介護の A 測線、S N1-17 では、A と B43 層より上位に変位変形がないことから伏在断層としておるんですけれども、
1:23:07	その先の延長線当社測線の No.19 ですね、のところでは、当該断層の延長先に断層が認定されていないということでこの No.19 をもってこの止め測線としているものでございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:21	17 ページをお願いします。海域活断層の今までのまとめを一部入れてございます。地震本部登記許可を比較した結果、今日は必要な確認が必要な断層として尾野島と第 1 号当貸のプロに断層を抽出してございます。
1:23:39	この 2 断層のうち、尾野嶋金海断層につきましては、地震本部とキキヨ我々の評価では同様の位置に断層認定しているんですけども、断層の区間は、胃癌の違いが生じていると。
1:23:52	檀地震本部の方では、断層トレースにギャップが存在すること区間は、
1:23:57	ことから区間分けを行っているものに対して当社では警護断層と壱岐北斗の断層群の地質構造の違いをもとに、断層を評価しているというものでございます。
1:24:07	また、第 1 号と体につきましては、第 1 号タニ認定にあたっては既許可以降の知見として、日本海プロジェクト及び断層兵庫総合評価プロジェクトを参照しており、
1:24:20	断層トレースは最もその A と断層、断層情報総合評価プロジェクトが類似していると。
1:24:27	そのプロジェクトでは、既往の音探記録をもとに断層認定していると。一方当社につきましては、公的機関の記録及び、
1:24:37	当社独自の音探記録をもとに断層を評価しているということで、地震本部との差異がある中部区間については当社を
1:24:44	当社につきましては、
1:24:46	同斜の音探記録ごとに断層を解釈してないということになってございます。
1:24:51	以上より、地震本部と既許可評価の違いというのは、新たに調査結果とかの追加というものがあったものではなくて、セグメント市野が異なったり、
1:25:02	当社の測線の活用の有無により生じたものと考えられるというふうに感じ、整理してございます。ただし、この 2 断層につきましては既許可評価より断層長さが長くなるというところもございますので、
1:25:15	発電所の安全性をより高めるという観点から、基準地震動基準津波の影響について次ページ以降で整理をしているというふうにしてしてございます。
1:25:26	19 ページ以降、地震動の影響評価というふうに整理してございます。
1:25:33	19 ページにつきましては先ほどご説明いたしました 2 断層を抽出することとし、断層の位置とを記載してございます。20 ページ目をお願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:44	地震動の影響確認の方針につきましてですが、既許可の内陸地殻地震の評価フローに基づいて先ほどの 2 断層による、
1:25:54	地震の基準地震動への影響確認を実施するという事で下のフローに基づき、基準地震動の影響確認を行うんですけれども、(1)につきまして今回この 2 断層というふうに変定した、いたしておりますので、
1:26:07	(2) の敷地に大きな影響を与える地震の抽出ということで、これにつきましては MΔ 図を作成をして、心臓震度 5 弱以上と想定される断層による、地震があるかないかを抽出するという観点で整理をし、していきます。
1:26:23	さらに、それを、その中で震度 5 弱以上というものがあれば (3) の検討用地震の変定というところのステージに上げて、野田ほかの手法による応答スペクトルの評価を行って許可の竹木場城南の二つの検討用地震の、
1:26:38	が、江藤の関係性を比較するというものでございます。さらに、その結果、基準地震動への影響の判断ができない場合、できないと、断層だというふうになれば、
1:26:51	詳細検討を行って、最終的に確認を行うというような流れで進めていくというものでございます。
1:26:59	その結果を示しているのが、21 ページ目以降になるんですけれども、21 ページ目につきましては、エムデルダ図を作成をす結果、
1:27:10	作成をして、2 断層について作成をしております。①が尾野島②は第 1 部等ということなんですけれどもこのエムデルダ図を作成した結果、震度 5 弱以上の揺れが想定されるということが、
1:27:23	わかりましたので、続いて先ほどのフローに基づいて、22 ページ、応答スペクトルの比較による検討ということを、のステージに移しています。
1:27:33	この応答スペクトルを比較した結果、既許可の評価において検討用地震として変定した竹木場城山南による地震のほうが支配的ということでございますので、この時点で基準地震動への影響はないということでスクリーニングアウトというふうに変理をしてございます。
1:27:50	続きまして津波の方の影響確認ということで同様に 25 ページ目の方、お願いいたします。
1:27:59	津波の影響確認ですけれども、先ほどの地震動と同様に、津波についても市許可時の評価フローに基づいてこの 2 断層の影響確認を実施するというものでございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:10	(1) は先ほどと一緒に断層を選んでございますので (2) へと簡易予測式による津波高の検討ということで、簡易予測式により算出した津波高と、既許可評価における簡易予測式の結果との比較を行って基準津波への影響を確認すると。
1:28:26	で、それでその結果、基準津波の影響を確認できない場合につきましては (3) の方のステージに上げまして、数値シミュレーションによる詳細確認を行うことで、最終的に基準津波の影響を確認するというような流れで検討を進めております。
1:28:43	で、26 ページ目をお願いします。先ほどのフローに基づきまして、まず簡易予測式を用いた検討についてですが、
1:28:52	2 断層について簡易予測式で確認をし、した結果、卸金海断層体につきましては、2.6 メーター、第 1 号棟体につきましては、1.4 メーターと
1:29:05	尾野嶋の方が大きい結果となってございます。この卸近海断層体につきましては同じ到来方向に、西山断層と柚木強化評価で評価したものがございすけれども、この
1:29:18	簡易予測式から求めた影響が 3.4 メーターということで、この西山断層体よりも低いということが確認できております。
1:29:31	このため、まず尾野島近海断層体というのは、基準地震、基準津波への影響はないというふうに整理をしております。また、第 1 号と田井。
1:29:42	につきましても、簡易予測式から卸間と比較して、もう第 1 部隊の方が低いということでここでも切れるところではあるんですけども、さらに第 1 号動態につきましては限界に対して地形的な障害、
1:29:58	松浦だったり、後藤だったりそういったところの障壁もあるということで、基本的にここについても基準津波影響はないということで、津波につきましてもこの簡易予測のところでスクリーニングアウトということに整理をしてございます。
1:30:14	ここまでの、影響確認ということで基本完了しているんですけども、卸近海断層体とけど、K5 の連動の可能性っていうものにつきまして、少し地震本部の方にも記載がありますので、
1:30:28	それにつきまして参考として 28 ページのほうに整理をしてございます。
1:30:34	警護断層と尾野島近海が断層体が一連で活動する場合ということなんですが、今回の長期評価におきましては、
1:30:44	5 断層と尾野島近海断層体につきましてそれぞれ単独の断層体として評価をしてございます。既許可評価につきましても、先ほどご説明差し上

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	げた通り、5 と 1 北東につきましては地質構造の違い等をもとに連続しないものと、評価をしたが、
1:31:01	しております。従いまして、警護断層と卸金海断層の連動につきましては、冒頭ありました 7 ページ目の影響確認フローにおける影響が確認。
1:31:12	影響確認が必要な断層には該当しないと考えているところなんです。ではあるんですが、地震本部の長の評価文書の中に、
1:31:23	この両断層の関係性について、下の丸で書いていますが、記載があるということで、大野島と敬語につきましては近接しており一連の活動、
1:31:34	活断層体では、である可能性を否定できないと、断層トレースの位置関係等から今後の調査研究によっては、当方機関及びし、北西沖区間は警護断層体を構成するかに、
1:31:46	なる可能性もあるというこういう記載がございますので、これを踏まえて、安全上の評価として、仮に、警護道路が一連で活動する場合について津波、
1:31:57	高さの影響を確認しようということで、その計算の試算を行うということにさせていただきます。なお、スタッフアスタリスクで記載をしていますが、地震動評価につきましては、
1:32:10	もともと設置許可の、長周期地震動の中で、長大断層の影響確認の一環として警護断層タイト域北東部の断層群が一連で活動する地震動評価としてご説明して、
1:32:22	でございますので今回の津波の部分だけを整理をさせていただきます。
1:32:28	29 ページ目が、その結果でございますけれども、まず、域北東溶け後に、の一連で活動する津波計算につきまして、簡易予測式で求めた結果、
1:32:41	高さが 5.5 メーターということで先ほどご説明しました西山断層の 3.4 より大きくなったと、いうことでございますので、市来と日置北斗と圭吾が連動するこの津波計算について数値シミュレーションを行った結果、
1:32:56	最大心変動量は上昇が+1.86、メーター下降側がマイナス 1.49 メーター程度ということこのくらいの影響だったということで、その確認をさせていただきます。
1:33:11	その内容について 29 ページで、30 ページ目 31 ページ目につきましては先ほどご説明しました地震動の時の、当時の審査会合資料の抜粋をつけているということで、
1:33:24	説明はちょっと割愛をさせていただけたらと思います。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:31	続きまして 32 ページ目以降、日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価第二版ということでご説明をいたします。まずその概要ということで、33 ページ目をお願いいたします。
1:33:46	地震本部につきましては、今回の日向灘南西諸島の地震活動の長期評価第 1 版、初版ですね、以降、最新知見を踏まえまして、今回の第 2 本を公表されてございます。
1:33:59	下に地震本部さんが公表された概要版を付けてございますが、2 の改訂の 2 ポツの改定のポイントということで、大きく三つ、最新の知見を踏まえて地震を
1:34:10	再評価、不確実性を踏まえて現在の科学知見を考慮した評価を行うとともに、評価対象領域を地震を再編したと、いうことを、土地代がされてございます。
1:34:21	これを踏まえまして以降、今回初版と、今回の日本の変更点について整理した上で、主に仙台の方でございすけれども、影響確認を整理していくと。
1:34:32	いうこととしてございます。早速初版からの変更点っていうのを 34 ページに移行について整理をしてございます。35 ページ目をお願いいたします。
1:34:46	今回の素案からの主な変更点につきましては、大きく二つございまして、一つ目が評価対象領域について、その範囲を変更拡大したということと、
1:34:58	地震規模を再設定したということで、巨大地震 M8 を導入するとともに、1771 年の八重山地震津波対応タイプというものを設定したと。
1:35:09	いうことと、あとなお書きで記載をしてございますが日向灘の浅い地震の発生形態については、プレート間地震プレート内地震区別せずに評価したというふうな、
1:35:20	記載となつてございます。
1:35:24	36 ページ目以降、それぞれ各領域ごとにどういう形に変わったかというものを整理してございます。で、36 ページにつきまして日向灘周辺領域に関する変更点の整備ということでまず日向灘につきましては、
1:35:38	評価対象領域については第 2 版では南海トラフの地震活動の長期評価第二版における土肥三崎や志津三崎のセグメントセットを踏まえて領域を整合させてございます。
1:35:49	あと地震規模については初版では最大 M7.6 前後としていたものを第 2 版では巨大地震への発注を導入して地震規模を再設定しているというこ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	とと、先ほどありました浅井地震の発生形態については初版でプレート間のみというものであったのが第2版ではプレート間または沈み込んだプレート内部というものを想定したというものが大きな変更点になってございます。
1:36:11	続いて、37 ページ目をお願いします。
1:36:15	安芸伊予灘豊後水道につきましては、評価対象領域につきましてはこれまでの地震活動分布等に基づいて初版から領域を拡大をしてございます。
1:36:26	装荷対象領域の地震規模及び発生形態については、照岸タニ版で変更点は見られないというものでございます。それと九州中央部につきましては評価対象領域について初版においては九州から南西諸島周辺を一括して設定した領域というものだったんですから今回九州何番で周辺、
1:36:45	南端周辺で分割したということになってございますが、それと地震規模につきましては、初版では長大だったことから不明としていたものを第2班につきましては、
1:36:55	1909 年のM7.6 の地震と同程度のM7.0 から 7.5 の地震が発生することとしてございます。
1:37:05	続いて 38 ページ、南西諸島海溝周辺に関する変更点の整備ということで、南西諸島海溝周辺の評価対象領域につきましては、南西粗度海溝軸外側まで領域を拡大されてございますそれと、
1:37:20	与那国島周辺においては、台湾東方沖で発生する地震による津波被害を考慮して台湾東岸まで領域を拡大しているというものでございます。それと地震規模につきましては初版では不明だったというものを、
1:37:32	第2版では、最大規模M8.0 を設定したということと加えて将来発生する地震の評価として 1771 年の八重山地震津波タイプ、今はM p 8.5 を設定したというものでございます。
1:37:48	続きまして、40 ページ目をお願いいたします。ここからは、今回の長期評価の影響確認方針でございますが、先ほどからご説明いたしました初版からの変更点。それと、
1:38:02	結局、既許可時における当社のプレート間プレート内地震となる地震動評価及び津波評価を踏まえまして、第2班に伴う影響は、確認方針をこのページで整理をしてございます。
1:38:15	初版からの主な変更点は先ほどご説明した通り領域が変わったということと地震規模が設定されたということでございます。一方、既許可評価

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	につきましてはまず、地震動評価につきましては、プレート間プレート内地震の影響について、過去の被害地震を基に検討した結果、
1:38:33	が、距離が十分に遠いということで敷地に影響を及ぼす地震の対象ではないというふうな評価をしています。
1:38:41	また、先ほどその特定せずのお話でもちょっと出ましたが、長周期体の地震動評価として、M9 クラスのプレート間地震を評価して、これを S s を下回ることを確認しているということで、
1:38:53	鳥栖参考の 42 の 4750、47 ページから 50 ページの間にこの内容をつけてございますが、こういった評価を行っているというものでございます。
1:39:05	またあと津波評価につきましては、プレート間地震に伴う津波、
1:39:10	津波について、琉球海溝北部から中部の Mw9.1 を最も影響の大きな津波とし、波源として設定をしています。
1:39:19	プレート内地震に伴う津波につきましては、固着域の分析の結果、またあと発電所の位置の結果等も踏まえまして、金、もともとのプレート間地震、 Mw9.1、
1:39:31	の想定 of 津波に比べて影響が小さいというふうに評価をしています。
1:39:36	またあと八重山地震津波、 M T8.5 については履歴地震として考慮して、それを超えるような津波波源を設定した上で評価を行っているというものでございます。
1:39:47	この初版からの主な変更点既許可評価を踏まえまして 0 へと、右側の影響確認項目ということで、地震動につきましては、プレート階プレート内地震についてはもう距離が十分遠いということでそもそも検討用地震も上がってないということでございますんでもうここは機能影響がないと。
1:40:05	いうふうに評価をしています。
1:40:08	また、長周期体につきましては、先ほどありましたように M9 クラスをとそ増加済みということで M8 を、内数ということでこれも内包するというので、基本この地震動につきましては今回の変更に伴う影響確認はないというふうに整理をしています。
1:40:23	津波につきましては、地震規模につきましては M9 クラスの当社の方では、設定してはいるんですけれども、今回評価対象領域が変わったということで、津波伝播特性を考えると、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:34	その評価対象領域の変更による影響を確認した方が良いということで、これについて確認をしようということになってございます。
1:40:42	②の地震規模については、矢山地震津波M p 8 点を超える津波を設定済みということと、
1:40:49	またプレート内地震についてはプレート間地震と比較して、影響が小さいと評価をしてございますんで基本はこれは大きく確認する項目はないということで、この影響確認項目を踏まえまして、
1:41:02	今回の第 2 版改訂に伴う影響確認につきましては、津波評価のうち、評価対象領域の変更拡大に伴う影響確認を中心に行うということとしてございます。
1:41:14	続いて、42 ページ目をお願いいたします。
1:41:18	先ほどの確認影響確認方針に基づきまして津波の確認を行うということでまず日向灘の評価対象領域の部分から確認をしてございます。
1:41:28	企画課評価では、南海トラフの長期評価第二版及び内閣府の 2012 の知見を踏まえまして、内閣府 2012 の日向灘を含む南海トラフの津波波源を設定してございます。
1:41:41	機構は、評価評価で用いた内閣府 2012 と今回の長期評価第二版のモデルを比較し、下の図の通り比較を行っているんですけども、今日
1:41:51	相違がないということが確認ができてございます。また地震規模につきましては、
1:41:57	もともとへMw9.1 を見て、ヒラハラの方で見てますので今回公表された巨大地震M8 程度には内包ない。
1:42:05	配布をするということとと考えてございます。
1:42:09	続いて 43 ページ目、44 ページ目をお願いします。
1:42:13	越南西諸島における津波評価ということで、第 2 版で今回台湾東岸まで評価対象領域を拡大してございますが、許可評価につきましてプレート間地震の津波波源モデルは元の台湾東岸まで設定をして評価を行ってございます。
1:42:30	また 44 ページ目に、は、
1:42:33	津波伝播特性も検討してございますが、次、琉球海溝南部における滑り域の位置の検討の際に、台湾東岸までを滑り域を設定して設定した検討用波源を用いてシミュレーションを行ってその伝播特性を確認した上で、滑り域を設定していると。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:50	ということで、基本率丸まで伸ばしたものを確認し、設定してございますので、影響はないというふうに整理をしてございます。
1:42:56	最後に 45 ページ目、規模の方につきましても、北部、琉球海溝の北部中部南部で、それぞれMw8.78. 88.9。
1:43:07	F 加えて北部中部の 9.1 を設定してございますので今回の 8.0 の評価に内包するということで、基本津波評価につきましては先ほど確認方針に基づいて設定し、確認した結果影響がないというふうに整理をしてございます。
1:43:22	46 ページ目以降につきましては、先ほど、影響確認方針として、ご説明をした地震動の、
1:43:31	プレート間プレート内地震の評価での説明の資料を、参考でつけてございます。説明は時岡くんですので割愛をさせていただきます。
1:43:42	ご説明は以上です。
1:44:04	はい。
1:44:05	ありがとうございました。ちょっと丁寧にご説明いただいたんで、ちょっと今、1 回でこちらの方からのご質問し切れるかわからないんでちょっと時間が、
1:44:15	なかったらですね、また次の資料、このままで次の機会に、残りの部分をお聞きするとかちょっとその辺は考えたいと思います。
1:44:25	そうするとですね先に海域活断層の状況下の方から伺おうと思うんですけど、
1:44:35	5 ページ目、これー、
1:44:39	先ほどの話だと、地震本部 2002 で、既許可、川内、玄海許可以降に、
1:44:50	発表された公表されたですね知見というのは下の二つですということで、あと石油天然ガス金属鉱物資源機構だけ年は書いてないんですけど、
1:45:04	これは企業家の中に入っている許可の中でも、
1:45:11	は、そもそも見てもいない、どっちなんでしたっけ。
1:45:15	この松本岡村とかですね阿部とかってこの期間以降に発表されたっていうのもそうですし、企業間の中で、御社がその評価をする際に、自社で、
1:45:26	そのとったデータ以外の他のデータも当然参照しながら、最後
1:45:33	この活断層をこう評価するってふうにされると思うんですけど、
1:45:36	機器局その評価の中で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:39	カバーしているもの、ないものっていう視点だと。
1:45:43	この
1:45:44	金属鉱物支援機構とかですね、その上の松元岡村、この辺りってどうなるんですかね。
1:45:52	九州電力はトクナガです。まず松野、岡村ほか 201 と、ジョグメックにつきまして転任石油天然ガス金属鉱物支援機構の蘇武芽久さんの調査につきましては、
1:46:07	許可の中で評価を織り込んでいると、いうようなものになりますので、
1:46:14	なのでこの日一覧で示し、最初、一番上の産総研の測線につきましても、織り込んでいるということで基本、上から 1235、5 ポツ目までは、
1:46:25	主盤の中に入っていると思うと考えていただいていいと思います。
1:46:35	はい。わかりましたこの上の五つ許可の中で個々それぞれは
1:46:40	知見として把握をして収集をしていって、それをもとに評価の時に、
1:46:46	ハザード評価をしてたということですね。はい。
1:46:48	わかりました。ちょっと今このページだけ見るとその発表されたかどうかというところ。
1:46:56	だけだったので、すみませんちょっとそれをお聞きした次第です。
1:47:02	その次がちょっと今回影響確認の方法ということで、
1:47:10	ちょっとこのフローだけでお話を聞き、質問してもあれなので、
1:47:16	別のところにいるんですけど、
1:47:18	一応この 9 ページ 10 ページとかですねこのあたりでいくと、
1:47:23	海域活断層の断層の位置としては概ね、
1:47:29	同じですということで 1 はわかりましたと。
1:47:33	では次 2、11 ページに行くと今度は評価長さ。
1:47:39	まあその、いわゆるセグメントの組み区域区切り方もそうなんですけど評価長さは、
1:47:45	多少違いますねと。
1:47:47	で、それ以外行って、
1:47:50	特に違いはない、ないというかそもそも地震本部 2022 だと。
1:47:56	特には、一度長さ以外は情報はないんですけど。
1:48:01	んですけど、いや、形式化傾斜とかですね、何かその辺のところで差異っていうのは特にあるんですか。
1:48:07	ないんで。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:48:09	九州電力の徳永です当期、今回の地震本部が出された、今回の海域の断層につきましては基本すべて横を横ずれ断層として評価をされてございましてこれは当社の評価と差異はございません。
1:48:24	はい、わかりました。そうすると、
1:48:28	浅井としてはこの長さですと、
1:48:30	ていって、
1:48:32	ちょっとですねすいません、海からなんだ、所。
1:48:38	31－131 年頃島近海。
1:48:43	断層体で、これは A と。
1:48:48	本社のところでは、名付け方が違いますと。
1:48:55	で、
1:48:56	あとは部分的に警護断層体の方に入れるか入れないかの違いがありますっていうのが、
1:49:03	11 ページ。
1:49:06	12 ページ。
1:49:09	13 ページで、
1:49:14	ここは御社としてはですよ、地震本部 2020 にはあるのだけれども、
1:49:23	結論としては許可のときと、
1:49:26	同じ
1:49:30	区切り方なんで警護断層の一部、
1:49:35	ですかね調教が 2022 だと 31 の、
1:49:39	2、
1:49:41	東方沖区間の、そのうちの一部分。
1:49:46	は、引き続き、警護断層体の一部として、我が社は評価をし続けます。
1:49:53	というのが、一応この
1:49:55	頃ころ島近海断層体。
1:50:00	についての御社の考え整理。
1:50:07	ということですかねこれ 13 ページまでのところ。
1:50:12	九州電力の徳永です。3 社中、10 ページ目をちょっとご覧いただいたらわかりやすいかもしれないんですけども、溶け 5 断層体のところ、当社の警護断層体としてくくったのを、少し赤井断層の周りに、
1:50:27	おいのような形で、下段の状態を示してると思うんですけどもこの（イ）の中のこの警護断層では、当社としては評価は変えても変えない

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	と、ただこのちょうど青いところを口の島近海断層の社員が聞いているんですけど、
1:50:40	ここが一部、我々として評価した規模断層体の中にこの同じ金海断層が入っていると、というようなイメージで、ご理解いただければと思います。
1:50:50	下ろしますかすいません。
1:50:57	すいません 10 ページのところ、域北東部断層群家 5 断層体。
1:51:07	いわゆる枠で囲っ。
1:51:09	この枠で囲っているのもこの枠もあれですよこれ御社の。
1:51:14	30 キロ以遠の評価ですね。青井。
1:51:18	仙田線だけが、
1:51:20	地震本部 2022 を青線でトレースしたわけですねこの 10 ページ。
1:51:26	その通りでございます。
1:51:30	わかりました。はい。檀 D。
1:51:33	はいはいこの断層群と警固断層体はどっちに、
1:51:39	はいはい。はい。はい。
1:51:40	分けするかであって全く
1:51:44	新しい断層区間区間というか新しい亀裂が見つかったわけではなくて、区切り方が違いますねということですねここははい。
1:51:55	わかりました。
1:51:56	で、とでですね、引き続き、
1:52:00	御社としては、評価の、
1:52:05	男性ん北東部の断層群警護断層体この評価としては、
1:52:11	引き続き変わり、
1:52:14	1000、
1:52:15	というのが最後結論ですか。
1:52:21	九州電力の徳永です。経営者、当社といたしましては、既許可の評価、海域活断層の評価としては、もう変えないというものでございます。
1:52:37	はい。ちょっとそこははい。というのがこの 13 ページまでですね。
1:52:42	ダイイチ五島の方はどうかというと、
1:52:49	これは、
1:52:53	トレースは類似している、15 ページ。
1:53:02	これは、
1:53:03	サブはどうなるんですかね。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:08	70、
1:53:11	これそもそも中部区間がなかったり、
1:53:15	植野市、何何本若干違いますけど、
1:53:20	結論としてかなり敷地から遠いのでそんなに影響がない断層だというのは何となくわかるんですけど、
1:53:27	これは最後その差分として、これも最終的には、
1:53:32	引き続き、
1:53:37	既許可の、
1:53:39	断層の区分で、
1:53:42	変わりません。
1:53:46	というのはこっちもそういう結論ですから、
1:53:50	九州電力の徳永です。今回地震本部の方で、評価文先ほど記載をさせていただいてるんですけども、九州電力及びその下、両プロジェクトの
1:54:04	断層がそれぞれこの近くで認定されているとただしその三つの断層の違いを、
1:54:10	判断できないということで一連の活断層隊として設定したという、程度という言い方はちょっとあるかもしれないんですけどそういう認定のされ方をしてございます。
1:54:21	で、実際にその三つの二つのプロジェクトを見たときに、一番長く効いてるのは断層情報総合評価プロジェクトというもののなんですけれども、
1:54:32	これにつきましては、基本新しく測線を走ったとか、記録を追加したとかいうものではなくて、うち、今日の文献を切ろう日置のもともとのある知見をもとに認定をしているというもののなんですけれどもこれには当社の
1:54:51	測線は入っていないというようなところもございまして、業我々はそれにプラス当社の測線のところもプラス、断層を評価したということで、基本、我々の補正制度が十分あるだろうという、
1:55:06	ことで、我々評価は変えないということとしてございます。
1:55:13	はい。はい。すいません
1:55:16	北側と南側は多分地震本部の方も御社の方も、何ですかこの真ん中の部分で、御社がなしてなって、地震本部では、
1:55:27	一応その断層長さとかを受けて、
1:55:30	ありになってるこの真ん中の区間というのはどういうことなんですか。
1:55:36	中部区間ですかね、22 キロで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:40	北部区間は、一応当社、御社の方も、ある断層群と南部加茂丸断層とほぼ同じようなところを、
1:55:49	地震本部が北部区間と名付けているだけで御社は別の名付け方で、34 キロで把握はしてございます。中部区間だけが間が空くんですけど、ここは、
1:56:03	ここはどうでしょうか。
1:56:05	木曽野瀬、説明 16 ページ当社の評価といたしましては、
1:56:13	左下に断層の概略位置図というのを付けてるんですけども、北部区間が、相当数のこの F G W1 とか 2 になるんですけども、
1:56:23	これの南西側の止めにつきまして、もともとその上の S s - N1 の 17 と No.19 の話、断面を付けてるんですが、さらにその上側のところでは、
1:56:36	A と B3 層を切るであったり、A と B B3 層が褶曲構造になったりしてるということで変位変形が見られるんですけども、S N1-17 で、そこが伏在断層になっていると。
1:56:47	ということと、さらにその先の No.19 では、その延長部に変位変形は認められないということで、どこも各断層の情報を見てここで北部鹿野止めを行っているというものでございますんで、一方その先にまた南部の方がこれ、
1:57:03	図面つけてございませんけれどもその下に、F u j i i W3 と 4 というものがございましてそこでまた、どうぞ、同じように、檀活構造が見つけられるとその延長トレースを考えたときに、
1:57:16	そこの長さで止められるというものを出す、坂野滝川の測線並びに内野測線を見ながら決めているというものでございますんでなのでその間がちょうど空いているような格好というようなものでございます。
1:57:29	わかります。15 とか 16 ページこのあたりを、
1:57:34	見ればということですね。
1:57:36	てこ。
1:57:38	なるほどで、北端等、下端というすいませんちゅチューブ区間ではなくて名前を何と言え方がいいのかというと、
1:57:48	北部区間の北端と南部区間の南端、これは御社の、ここは変わらないんですよ。中部区間のところが、いやここを、
1:57:59	海域の活断層と認定するかどうかのところは、その元 D た、明日、
1:58:07	元データがそもそも違う、の量が違うので、御社と地震本部 2022 で、差が生じていますと。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:15	北端の方は一緒ですかこれ。
1:58:18	九州、うん。九州電力の徳永です。北部の北端の方については、基本、医師一緒カモシカも弊社の方は長いというような形になってございますが、南部につきましては若干、
1:58:35	プロジェクト、地震本部の方が長いようにもちょっと見えてます。15 ページの、
1:58:44	15 ページの左側で
1:58:48	確かに上は若干御社の方が飛び出ていって、
1:58:53	そうですね。うん。
1:58:55	南の方は、場所自体が若干違いますけど、
1:59:00	赤田。
1:59:05	先ほどの 10 ページ目を見ていただくとわかりやすいかもしれない。
1:59:09	の方がいいですか。
1:59:19	はい。ざっくり言うとその 10 ページ目の左側をご覧ください。ということですね。はい。
1:59:27	なるほど。はい。
1:59:32	ちょっとすいません 1056 辺りのところはもう一度線のよく読んでみようとは思います。
1:59:39	最後の一応、断層としての評価のところが 17 ページでまとまっ。
1:59:47	てるんですけど、
1:59:51	ダイイチ後藤の方は、結局、発表された時期としては地震本部 2020 の方は当然新しいですし、
2:00:02	そこに入っている
2:00:04	日本海地震津波調査プロジェクト海域における断層情報総合プロジェクトこれも、このプロジェクトが終わったのは、既許可よりも後ではありますと。
2:00:16	ただし、そこに使われている、
2:00:21	上総 D たですね。
2:00:23	これはどちらの方が新しいのかというと、
2:00:27	これはどうなんですかね。海域における情報断層情報総合プロジェクトでは既往の、
2:00:34	音波探査記録をもとに行ってる個々の企業というのは、
2:00:38	御社が把握、評価の時に把握していた既往の、その企業のですか。
2:00:45	その通りでございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:49	なので弊社ももとは、私が当社が持ち合わせていた情報と、
2:00:54	変わらないというものになります。
2:01:00	それ、これは海域におけるウー断層情報総合プロジェクトではですね、
2:01:08	日本
2:01:10	機械地震津波調査プロジェクトの方の元データはというと、それはどっち、御社とどっちの方らしいですかね、この断層について言えば一応地震本部 2022 では、
2:01:22	海域におけるの方の、
2:01:25	プロジェクトの方を採用しているようではあるんですけど、
2:01:30	15、15 ページ目をご覧いただければと思うんですけども、今回、日本海地震津波調査プロジェクトにつきましては東大地震研さんの方で調査されているんですけども、ここにつきましては、
2:01:43	一部、新しく地震、藤大臣検査の方で測線を音探員パターン先 6 測線を走らせているというのでそれが薄いグレーのところに、と記載がある部分になります。
2:01:56	ただ、先ほど言いました第 1 号当貸のところにつきましては、ちょうど我々が認定していた中通島のちょっと北西側に 1 測線あるだけで、
2:02:09	それ以降見密度よく、測線は新しくはしたとかそういうものではありません。
2:02:23	最後の 15 ページで、
2:02:26	手塚判例があって、日本海地震津波、
2:02:30	調査プロジェクトにおける断層でそのときの調査測線があって、
2:02:36	この日本海地震津波調査プロジェクト調査測線、これは、
2:02:41	起業家以降に東大寺シンケンが、
2:02:46	日英調査した調査測線ですと。
2:02:49	なんでここは御社として許可の時に把握していなかったデータでありますと。ただし、
2:02:55	日本海地震調査プロジェクトにおける断層というのは、
2:02:59	これは、
2:03:01	今回でも、
2:03:05	ただそこは、御社の評価にどう影響しているかという今回この、
2:03:11	断層長さ 70 キロ、
2:03:14	引かれたのは、これは日本海地震調査プロジェクトの方の調査測線のデータが加わっ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:03:20	で、このプロジェクトで断層を線を引いたからではなく、
2:03:25	その上の会議における断層情報総合評価プロジェクトにおける断層、
2:03:31	の、
2:03:32	に、そちらの方が採用されましたもしくは採用されたのではないかと。
2:03:38	本社を持っておりますと、
2:03:40	そっちのデータというのは、
2:03:43	この中では、どっか測線が引かれてるわけではないんですね。
2:03:49	この 15 ページの図の一番下にある公的機関の調査測線と言ってるのは、
2:03:54	これは御社が既許可のときに、
2:03:56	把握してた公的機関の調査測線、
2:04:02	はい。その通りでございます。
2:04:06	はい。
2:04:07	なるほど。
2:04:17	で、すいませんもう 17 ページの第 1 号等のところなんですけど、ここで、
2:04:22	頭に、二つ目の四角で既往の音波探査記録をもとに、で、
2:04:27	当社は既往の公的機関の記録、
2:04:31	及び当社独自のなってるので、
2:04:34	ここで言う当社は既往の工程期間の記録と言ってる中には、その 1 個上にある、
2:04:42	既往の音波探査記録、
2:04:44	が含まれているということなんですよね。
2:04:49	はい。その通りでございます。
2:04:57	元のデータとしては自社の方が、より広いデータをもとになったので、その社員が生じてるのは、そのヤギで、その下、最終的な
2:05:09	中、真ん中の部分ですねこの評価としては、引き続き、
2:05:16	活断層、
2:05:18	この区間は活動性はない。
2:05:20	いう評価は変わりませんと。
2:05:30	ちょっとね若井和賀。だから、既往の、どの時点の調査等で発表された推本 2022 があってその元になってるプロジェクトがあって、
2:05:41	さらにそのプロジェクトで使っている、その元の探査データがあって、そこら辺の、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:49	それと御社のところの許可の評価で、再使ってるそのデータですね、その関係性がちょっとすいませんわかりにわからなかったので、
2:06:00	今お聞きした次第です。今ご説明を何度か往復で聞くと、何となく関係性が見えてきましたと。
2:06:11	茂呂の
2:06:13	の方ですか卸
2:06:15	金。
2:06:17	金海断層体こっちワー、
2:06:20	これは何かその元の、
2:06:23	調査データとか、そこで何か差分は生じているんですか、ないんですかこれは最後。
2:06:30	その区分をどうするかっていうところで結論づけているので、あまり調査データの新しさ古さというところは言及はないんですけど、
2:06:39	ここでは取ったんですかねこちらは、
2:06:44	九州電力の徳永です。まず地震本部の方につきましては、基本、我々も見ている産総研さんの測線をもとに、解釈をされていると思われます。
2:06:58	で、当社につきましては3層形の測線に加えて、当社でみずから測った測線であったり、ちょっと場所、海側に出るところにつきまして電中研さんが持つ調査された測線とかも踏まえまして我々の方で評価を行っているということで我々の方が少しデータ量が多いと。
2:07:18	というようなイメージでございます。
2:07:22	はい。これも13ページの方に、
2:07:26	音波探査測線とかっていうのを書いてあって、
2:07:32	で、この中で、
2:07:36	御社が、
2:07:38	これは御社が
2:07:41	採用採用とか集め投じながら集めていた音波探査測線がこれすべてで、
2:07:47	この中の一部が、
2:07:51	地震、
2:07:52	本部2022、このもとになったプロジェクトの方で、
2:07:56	使っている。
2:08:00	測線の、
2:08:02	データ、
2:08:03	ここも

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:05	完全に御社の補データとして御社の方がすべて包含してって御社の方が 多いのか、部分的には
2:08:16	先ほど言ったような東大寺シンケンが許可以降にとった、
2:08:20	属性のデータとかですね。
2:08:22	ので、差分があるのか、ちょっとそこがわかりにくいんですけど、ここ は完全に御社の方が崩落してる崩落っていうかそのカバー範囲としては 完全にスッポン者の、
2:08:33	ここに載ってる中に収まるんですか。
2:08:38	九州電力の竹中です。我々が等の調査の中には包絡されるようなイメー ジでございます。
2:08:48	東大寺シンケンがこの辺りでまた新しく測線を走ったとかそういうもの は、承知してございません。
2:08:54	以上です。
2:09:02	はい。
2:09:03	で、ちょっとここでゆ、多少そのセグメントの繰入型でその考え方が、 御社と、推本 2022 で、
2:09:13	違います。
2:09:15	そのギャップがあります。ということですねちょっとここは、
2:09:19	そこの事実の確認だけに留めておきます。で、
2:09:23	結局、
2:09:28	部分的には東大寺シンケンが新しい測線をとってますけど、例えばこれ 第 1 後藤のところは、結局その、
2:09:36	データというよりは、既往の、
2:09:39	音波探査記録を基にした引かれた線なので、
2:09:42	新しい D たというものが純粹にあるのではなくて、
2:09:47	炉の方の、これはだからセグメントの位置の差異です。
2:09:52	大字後藤の方が御社のその測線、
2:09:57	これはでも、冒頭を見る等、御社のその結果も、
2:10:02	分、それもきちんと加味した上で地震本部 2022 が発表されたんですと いうふうに冒頭の、
2:10:09	ちょっと説明にはあったような気がするんですけど。
2:10:12	5 ページのところですね九州電力株式会社 2013 も、
2:10:18	織り込んでいるということで、
2:10:22	これは直接的には地震本部 2022 の、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:26	ところでは、いやこういうここにはその9電の、このデータを使いませんでしたとか、特にそういう緊急は、
2:10:35	中、
2:10:36	何ですかね、
2:10:38	ある程度広範囲を、
2:10:42	評価しなきゃいけないので、
2:10:44	特別この
2:10:46	九州電力の周りだけ。
2:10:48	特別何か濃いデータを追加するという操作分ができるはずなので、
2:10:53	何かしら理由があってこういう理由でここではこういうデータを使ったこれはこういうデータを使ったっていうのは、特に地震本部2022書いてあるときは、
2:11:04	給水元になったプロジェクトがどうかっていうことで、ちょっとそこら辺が、
2:11:08	よくわからないんですけど、冒頭では、我が社のものも採用されて、最後にしつつ、神本部2022が出ておりますと言いつつ、
2:11:19	何か後ろに行くと、我が社のものは活用されてございませんっていうふうに出てるんですけど。
2:11:27	九州電力の徳永です。14ページ目をご覧いただければと思うんですけども、14ページ目のふたパラメに地震本部の長期評価の評価文章の中の記載を抜粋してございます。
2:11:41	今回のその第1五島田井につきましては、九州電力及びその両プロジェクトによって活断層が認定されているが、それぞれの断層の認定範囲が一致しないと。
2:11:55	なので、地震本部の今回の長期評価では、それぞれの違いを評価できないと判断し、それらを全体を一連の活断層体としたと、いうふうな記載がぁっているということで、
2:12:07	地震本部はこの三つのプロジェクトの断層が違いがわからないということでコウラクするような形で断層を認定したと、というような書き方がありますので基本そういった形の仕方をしたというふうに我々認識してございます。
2:12:22	わかりました最後の方らのところで、
2:12:27	丸々全体を丸めて評価されたということですね。
2:12:42	規制庁佐口ですけど、ちょっと言って1点だけ確認なんですけど

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:12:47	15 ページである、2 ポツ目っていうんですかね、二つ目のところなんですけどこの海域における断層情報総合評価プロジェクト。
2:12:57	当然、御社も含めて同じような音波探査記録で、
2:13:03	使ってると思うんですけど、この括弧書きで書かれている地質構造の、
2:13:09	はい。
2:13:10	に変位がある、かつ、海底地形の辺止められるものって、
2:13:14	具体的に何かど、どういうものかって、把握されてますっていうのと、
2:13:19	御社が実際に今の審査なり規制の中で、
2:13:25	活動性ありエネルギーやっていう多分、
2:13:30	判断というか、評価をすると思うんですけど、それと同じやり方なのか、それとも違うやり方なのかその辺って把握されてます。
2:13:40	九州電力の徳永です。このプロジェクトの方につきましては、記載の通り地質構造に変形がある場合を断層に呈しているというような書き方がある報告書にもあったりするんですけども、基本これ時代間、
2:13:54	我々に後期更新世に変位変形があれば活断層、そうでなければ、被覆材であったりという整理をするところなんですけどもこのプロジェクトでは
2:14:05	そういう時代かも関係なくその中に断層があれば、活断層だ、活断層と認定すると、いうような整理をされているものと認識してございます。
2:14:18	はい規制庁佐口です。そうすると、今ちょっとよく私も詳細はわかりませんが、
2:14:24	そういった評価の基準っていうんですかね、クライテリアっていうか、そういうものが違うという可能性は大いにあるという理解でよろしいですかね。
2:14:36	九州電力の徳永です。報告書にしっかりとそういうふうには書き書きかえ、書きされてるわけではないんですけど我々としてもその、そのクライテリアの違いによって出てくるものも、
2:14:48	あり得るのではないかなというふうにも思う可能性としては思っています。
2:14:59	すいません。ただしその卸も、まず、中央断層の方ですね、これの嶋金海断層の方につきましては基本断層の認定範囲は我々と地震本部さんで7本一緒でございますのでそういった違いというよりは先ほど鈴木さんから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:15:17	言われてた通りそのセグメントの違いが主なのかなというふうに思っています。で、第 1 号体につきましては、この部分につきましては、
2:15:29	海底地形とかも見つつというふうな形で記載があるのでちょっと一概には言えないんですけどもそういうそういった可能性もあり得るのかなというものでございます。
2:15:57	成長する形先ほどちょっと時代、時代間とか時代でのクライテリアの話が、
2:16:05	あったんですけど、
2:16:07	特にこの資料上はすみません
2:16:10	御社もだから甲斐 16 ページで言う海上保安庁の測線ではと言っていて、
2:16:17	海上保安庁の測線では、
2:16:21	上位は変形構造がないことから伏在断層としており、
2:16:27	なのでこの範囲までは、許可でも T 社も、
2:16:32	海域活断層として、
2:16:36	認定はしていて、
2:16:38	ただしその先のところで当社測線 No.19 で、
2:16:43	止めているので、そこで差が生じます。
2:16:47	当社測線 No.19 は、今回の地震、今回の何だ海域における断層情報総合プロジェクトのでは、
2:16:59	そこは見ていないので、
2:17:02	既往の改造海上保安庁の多分促進、同じ測線なのかちょっと別のものかわかりませんがそのまま断層を引いてしきいていると。
2:17:10	で、特にあんまり海域のところで、何万、これは 200 万年前ではこれはジュニアの後期更新世以降だ。
2:17:21	より新しいだとかっていう
2:17:23	そこら辺ってあんまり話をしていないような気がするんですけど。
2:17:32	九州電力の徳永です。相馬スズキさんのご指摘の通りですね当社といたしましてはそういう認定の違いのつく可能性は少なからずあるかもしれないんですけど基本今回のこの第 1 五島田井につきましては、
2:17:46	こういったその使った測線の違いであったり、この当面の測線ですね、というところで、評価の違いが大きく出たというふうに認識をござ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	います。なので説明としてはこの資料をつけているということでございます。
2:18:04	ちょっと変位とかですね変形とか、どう
2:18:10	その存在は認めつつも、
2:18:15	いや、これの活動時期が古いので、
2:18:19	許可では、ここは、
2:18:24	いわゆる基準上考慮する断層としては認定しませんでした。
2:18:31	というかは、
2:18:32	なのか。
2:18:33	単純にさっき言ったようにいや、止めの部分を自社で独自に止める部分を新しくつつ、ちゃんと調べて止めをしたので、
2:18:43	断層の範囲が、
2:18:46	北と南で分断されて真ん中はこれは5断層ではないですよっていうふうに評価したのか。
2:18:54	多分長期評価 2002 ちょ、長期評価 2022、地震本部 2022 号ん
2:19:02	全体を見ると多分ふたそういうパ両方のパターンがあり得るんだと思うんですけど、その断層と認定するその基準、クライテリアの差だったり、
2:19:13	或いはそのデータの差による、その止めるか止めれないかの差だったりっていうのあると思うんですけど。
2:19:19	この上とダイイチ古藤の
2:19:23	評価の図では、それはどっちなんですか。先ほど年段階の話もやっぱりあるんですか。
2:19:30	クライテリアの話だな。
2:19:33	九州電力の徳永です。当社といたしたいしましては、基本クライテリアの違いというよりかは、当社測線等を見て、
2:19:46	止めれるところを詰め我々として止めているんですけども、そういった情報が、地震本部さん、地震本部さんというよりかは、断層総合評価プロジェクトをベースで作られてますので断層総合評価プロジェクトの中では、
2:19:59	見れてんな、なかったんではないかと、というような、ウエイトの方が大きいというふうに認識してございます。
2:20:16	はい。なのでその断層評価プロジェクトと、
2:20:20	その際は当社測線の存在。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:20:23	それが損を採用するか否か。
2:20:27	そのみによるんだったらそのみによるっていうことであるんですけど、
2:20:31	基準解釈のクライテリアの違いですね。
2:20:34	そこもありえるんだったらちょっとそういうのもわかるようにしてもらなきゃいけないので、かなりによって差が生じるかちょっと正確に書いてますご説明いただかないと、困るかなと思います。
2:20:48	さてで、すみませんこれ多分地震動のお話とかまでいくとさらに時間がかかってしまうので、
2:20:57	もしかしたらほかにも、すみません他の方はもう今野断層の評価のところで聞いておきたいということが幾つかあるかもしれませんが、
2:21:06	どうしても今のうちにというかこの辺少し、もし、次にヒアリングするまでに、
2:21:15	用意しておいて欲しいというものがもしあれば、
2:21:28	すみません 14 ページで言うところの 37-3。
2:21:33	本社で言うと、
2:21:37	分社だと。
2:21:39	仲。
2:21:41	あと、
2:21:43	中藤島 GW。
2:21:47	F u j i i W の 3、
2:21:49	F G W の 4 のこの北側、
2:21:53	北側の止めっていうのは、
2:21:57	さっき言った
2:21:59	御社の側線なのか、クライテリアの方なのか、こっちはどうなんですかね。
2:22:05	今多分あの測線、我が社の測線で止めましたと言ってるのは、上側の F G W 1 F T W 2 の、
2:22:13	の、南端側の方なのかな、F u j i i W 2 -
2:22:17	南端側の方の話だと思うんですけど、
2:22:22	九州電力の徳永です。ご指摘の通り、資料中載せていますのは、F u j i i W 2 の止めの測線で、F G W 4 の方の認定も、
2:22:33	当社の測線をもとに認定をしておるんですけども、どちらには記載をしてございません。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:22:39	雑魚こちらと同じなんです。それであればちょっと同じように書いていただくと思いますけど、
2:22:46	そっちでした。
2:22:51	規制庁の名倉です。1点だけ。
2:22:54	7ページ2、影響の確認の方針を今回追加してもらって、大体全体がどういうふうな流れで、どういうことをやるかっていうことが、
2:23:06	イメージが整理できてるかなと、されてきたのかなというふうにちょっと思ってるんですが、ただ1点だけちょっと、②のところがちょっと不明確かなと。
2:23:16	内容が、
2:23:18	私自身解釈した内容としては、
2:23:21	地震本部の藤、御社のその評価の違いについて考察した上で、
2:23:29	影響確認が必要な断層、
2:23:32	農家を整理するということですね。
2:23:35	影響確認が必要な断層。
2:23:39	んのうん設定について、ここで整理をするということか。
2:23:45	うん。何かここら辺はちょっと整理するっていう一言が、一体どこまでを表してるのか整理するっていうと、取捨選択する捨て去るということも含めて整理するっていう言葉、
2:23:56	の意味合いがあってそこまでこれが入ってるのかどうかっていうのが、ちょっと最初よくわからなかった部分があるんですが、いずれにしても、
2:24:04	整理するって言葉を使わない方が、
2:24:07	いいのかもしれないですねちょっとここら辺が意味が、もう少し明確化した方がいいかなと思います。先ほどお話した通り、
2:24:16	地震本部との評価内容の差異を考察した上で、
2:24:21	影響を評価を実施すべき断層の設定について、
2:24:28	整理するとか、検討するとか、そういったところかなと思います。すちょっとここら辺明確が必要かなというふうに思いました。以上です。
2:24:41	九州電力の徳永です。この整理するという言葉の表現、
2:24:45	ご指摘の通りだと思いますので、修正したいと思います。あかん。再考して修正したいと思います。承知いたしました。
2:25:00	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:25:01	よろしくお願いします。すいませんなのでちょっと地震動
2:25:07	評価、
2:25:11	天田でまず、まず活断層の評価としては、
2:25:16	推本 2023 億 2022 をもって、浅部、ちょっとここは資料としては少し、
2:25:23	説明はもっと充実してもらいたいたのですが、結論して活断層のところでは一旦、既許可の評価は変わりませんと。
2:25:32	他方で、
2:25:34	一応その長さが違ったりもするので、最終的な地震動
2:25:41	金地震動に影響があるかどうかはこれは次のステップで評価しますと。
2:25:46	で、
2:25:48	ちょっとMでルターの話です。
2:25:51	なんで検討地震の段階で、
2:25:54	落ちそうなほどの影響だというのが今回の海域活断層で、
2:26:01	津波の方も
2:26:05	菅予測の段階で、
2:26:09	西山断層単位の方が上回る。これも、
2:26:14	そこでオミットされます。ちょっと最後、
2:26:18	連動ですね、ここが、
2:26:21	なんですけど。
2:26:22	一連の 28 ページから、
2:26:26	これ、警護断層と近接しているので否定できない。
2:26:32	従って今後の調査研究によってもしかしたら同じものだというものになるかもしれないし、やっぱり違いましたねっていうのがはっきりするかもしれないしということで、
2:26:43	でもこの手の
2:26:45	どっちかわかりませんねという評価っていうのは往々にしてある話で、
2:26:51	こういうときに、御社としては、これはつなげる。
2:26:57	いや否定は当然完全して、何か似たようなところで走っていれば完全否定できないっていうのは、
2:27:03	と。
2:27:04	評価されているようなものは山野、他にもあるような気もするんですけど、
2:27:09	これをフラットに見たときに、御社としては、連動させるのか、いやそれは不確かさとして何か連動するようなものなのか、いや、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:27:19	それは津波評価の段階で連動させるようなものではなくて、何ていうかハザードウーカブとか、P R Aとかやる時にいやこんな場合もあり得るよねっていうところで、
2:27:30	その一つの考えとして採用する程度のものなのか。
2:27:34	とりあえず計算してみました。簡易予測式が大きくなるんですけど、その先まで引き詳細に計算するとそんなに高く大きな津波になりませんねっていう、
2:27:45	そこは結果わかるんですけど。
2:27:48	その圧かいいがなんか最後一応計算をしてみましたっていうのは、その結果こうですってのわかるんですけど、
2:27:55	これって
2:27:56	仮にフラット2、いやこれが、
2:27:59	2022年にありますけど、いやこれが10年前ぐらいに、こう書かれていたら、御社としてどういうふうに評価したんですかねっていうのは、ちょっとそこは非常に気になるかなと。
2:28:10	これちょっとすいません説明は次の、
2:28:13	スズキで結構だと思うんですけど、まず簡易予測で、上回りましたけれども詳細にシミュレーションすると、逆転して結局、その許可の津波の大きかったですっていうのも、
2:28:25	この原因が何なんですかっていう、これもすいません次、ヒアリングの時に、お聞きしようかなと思ってる話を、すいません今あらかじめ申し上げます。
2:28:36	ちょっと時間の方が済まをしてしまってるので、長期評価の
2:28:45	日向灘の方ですね、この話と、あとは今回の海域活断層長期評価の地震動津波の部分ですね、この辺、或いはちょっと今日、メインではすいません私ばかり聞いてしまいましたけども、
2:28:57	他のもので、活断層評価のところで、また、この辺がわからないというところがあればこれはすいません次の機会に
2:29:06	雨期しようかと思います。これをメインでヒアリングするというよりは、標準応答スペクトルの方でヒアリング設定する際に、あわせて聞くとかですねそこら辺は
2:29:17	考えたいと思いますけれども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:29:20	なので、すいませんご説明は今日メインでいただいて、ちょっと質問の事実確認方は、引き続きやらせていただくというふうに考えてございます。
2:29:36	九州電力の徳永です。引き続きヒアリング等で確認させていただくということで承知いたしました。よろしくお願いいたします。
2:29:47	はい。
2:29:49	では、ヒアリングの方ではこれで終了したいと思いますので先ほど度だった標準ほどスペックの方は、こちらは資料の方ですね、来週月曜日かな。
2:30:01	めどで資料をということでお進めいただくということで、よろしくお願いいたします。では超過しましたけれどもヒアリングの方は以上で終了します。どうもお疲れ様でした。
2:30:13	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。